

- ・入院患者の選択
- ・病室移動、モニターの電子化による遠隔監視

3) 職位

看護部長	師長	主任	副主任	スタッフ	その他
0名	16名	7名	1名	5名	2名(教員)

4) 職種

助産師：29名、看護師：2名

5) 職位の経験年数

1～3年	4～6年	7～10年	11～15年	16年以上
11名	6名	1名	4名	9名

6) 開催時期および時間帯は適当か

①はい：31名 ②いいえ：0名

理由 はい

- ・出生前診断の研修を受けるには、対象者を考えるとこの時期が適当 (2)
- ・早めに日程がわかっていたので調整がついた。開催時期はいつでも構わない
- ・ラダー申請後のため適切な時期だった
- ・院内行事と重複しなかった。今後のスタッフ向け倫理研修の企画の参考にするため

7) 講演に対する満足度

①はい：31名 ②いいえ：0名

理由 はい

- ・参考になった。勉強になった (多数)
- ・患者さんへの接し方、助産師の立場での発言の重さを再認識できた (4)
- ・看護師として、管理者としての倫理的な関わりについて学ぶことができた (3)
- ・今後の業務に即役立てられる内容でよかった (5)
- ・スタッフ教育に使えると思う (2)
- ・他施設の状況把握ができた

8) グループディスカッションに対する満足度

はい	いいえ	不参加	未回答
21名	0名	1名	9名

理由 はい

- ・肯定的、建設的な意見交換ができた (6)
- ・問題点の共有は励みになった (3)
- ・他の病院の取り組みを聞け、参考になることが多かった (2)
- ・自分には不足している、経験から来る視野不足を補えた

9) 全体（講演・全体討議）を通して、今後の業務実践に活かせるか

はい	いいえ	未回答
29名	0名	2名

理由 はい

- ・クロックミップで倫理をどのように取ればいいのか明確にした研修で、今後の指導、育成に活かせる
- ・他施設の管理や問題について課題を明確にでき、対応策が参考になった (6)
- ・出生前診断における助産師の価値観、考え方（押し付けない事など）(2)
- ・クアトロテストを受ける妊婦の説明、フォロー体制が参考になった

10) 今回の研修を何で知りましたか？（複数回答）

- ・千葉県看護協会からの通知（17）
- ・上司からの勧め（10）
- ・「助産師職能だより」（7）
- ・知人から教えてもらった（1）
- ・その他（1）

11) 今後、産科管理者交流会にて取り上げてほしいテーマ

- ・産科管理者以外へのクロックミップ・混合病棟問題・出向システム等の説明（多数）
- ・助産師必要度の見方、使い方（2）
- ・助産師ラダー評価方法
- ・キャリアローテーションについて
- ・産科管理の実際、各病院や施設での取り組みや問題点について
- ・産科医不足、助産師不足の中での地域に根差したケアや連携。
- ・産後ケアシステム
- ・地域との連携（特定妊婦、産後）について（2）
- ・周産期関連施設のネットワーク、情報交換
- ・産科医療補償制度の報告書の解説と各施設の対応
- ・トピックス的なこと

12) 今年度から発行を始めた「助産師職能だより」を知っているか

知っている	知らない	未回答
22名	8名	1名

13) 「助産師職能だより」に掲載希望の内容

- ・各施設の概要、助産業務の内容（ホームページに載らない部分）
- ・千葉県の助産師の現状ラダー申請のこと、混合ユニットのこと、その時期のトピックス事項
- ・研修会の半年提示
- ・中央の助産、新生児、小児関連の最新情報（2）
- ・千葉県施設マップの活動・可能業務

14) 助産師職能委員会から千葉県看護協会に提言してほしいこと

- ・産科・婦人科関係の研修をもっと増やしてほしい（2）
- ・産科の医療安全への取り組み、産科病棟の古い風土について各病院等の問題や取り組み。
- ・ラダーⅢの取得率、質を高めるための教育システム、評価基準の統一、千葉県内の助産師活動状況（2）
- ・出向システムの推進、システム化の土台づくり（2）
- ・助産必要度（新生児ケアも含めて）の導入（3）

総括：多くの施設が混合病棟化に伴う他科の受け入れについて困難観を抱え、上司や他部署の師長、看護師などの理解と協力を求めている。混合ユニットマネジメントの認知度は半数以下であり、混合病棟化に伴う問題の解決に悩む施設もあるが、既に解決に向けた取り組みを始めている施設も多く、助産師、看護師双方の指導、研修の必要性を感じている。産科管理者交流会はテーマを超えた有意義な施設間の情報交換の場と考えられていて、開催時期、及び時間帯、内容はほとんどの施設から適当であると評価された。終了時間管理を求める意見があった。講演のテーマは好評であったが、テーマのタイトルと内容に多少のずれを感じる意見もあった。案内状送付前に講師がどこまで話すかの詳細な事前打合せができるとよかったかもしれない。産科管理

者交流会の今後のテーマとして幅広く要望が出された。「助産師職能だより」は参加者の4分の3程度に周知されており、内容としては他施設の概要や業務内容、研修案内、日看協から千葉県内に至るまでの周産期関連の最新情報等を望む意見が挙げられた。助産師職能委員会から千葉県看護協会に提言を求める内容としては、現状では産科病棟の混合化が進む中で、助産師としてケアの質やモチベーションを保つことができる環境の整備を望んでいることがうかがえる。

3. 平成27年度中堅助産師交流会

日 時：平成28年1月25日（月）13:00～16:30

場 所：千葉県看護会館 2階中研修室

テーマ：助産実践能力向上を目指して～出血時の対応～

趣 旨：平成27年8月よりALL JAPANで推進する「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー/ CLoCMiP）レベルⅢ認証制度」がスタートした。今年度は当初の予想をはるかに上回る全国5971名の助産師が申請し、千葉県内での助産師職能委員会によるプレ調査では、少なくとも120名以上の申請がなされた。千葉県助産師職能委員会では、すでに10月の助産師職能集会と12月の産科管理者交流会においてCLoCMiPレベルⅢ申請を意識した内容のものを企画・実施致した。中堅助産師交流会では「出血時の対応」をテーマに講演を企画した。卒後のスキルアップ、日常の助産業務に即活用できる内容とした。講演での学びをもとに所属施設内での研修会等を企画開催することで、次年度以降のCLoCMiPの申請に役立つ内容とした。後半には「産科における危機管理に対する現状と課題」をテーマに各施設の現状や課題解決について情報交換を実施する。

内 容：★講演「出血時の対応」

講 師：千葉市立海浜病院 産科統括部長 飯塚美徳先生

★グループディスカッション

テーマ：「産科における危機管理に対する現状と課題」

◆平成27年度 中堅助産師交流会アンケート集計

- ・参加者：30名
- ・アンケート回収数：28名（93%）

1) 年齢

20代	30代	40代	50代	未回答
3名	13名	9名	2名	1名

2) 勤務先の種類

総合病院(産科単科)	総合病院(産科混合)	総合病院産科外来	産科個人病院・診療所	助産師養成機関	その他
4名	17名	1名	4名	0名	2名

3) 職位

主任	副主任	スタッフ
1名	1名	26名

4) 助産師としての経験年数

1～3年	4～6年	7～10年	11～15年	16年以上
2名	8名	5名	7名	6名

5) 開催時期は適当か

満足	やや満足	やや不満	不満
22名	6名	0名	0名

理由

- ・来年の取り組みに向けて対策がとれるので良い
- ・病院に持ち帰り伝達講習をするのに1年目も仕事を覚えているので良い時期

6) 講演についての満足度

満足	やや満足	やや不満	不満
26名	2名	0名	0名

理由

- ・出血時の対応で知っていることもあったが、新しく知ったこともあり良かった
- ・出血時の対応について新たに得た知識がたくさんあったので業務に生かしたい
- ・臨床の場面も含めて話してもらえたので良かった
- ・楽しかった
- ・ガイドラインや現状について知ることができた
- ・分かりやすく事例もイメージし易くとても参考になった
- ・講義が分かりやすかった
- ・勤務先が行っていないこともあり、講義も分かり易かった
- ・取り入れられそうな内容だった
- ・楽しい発見も多く取り入れられるところは取り入れていきたいと思った
- ・実際に使える内容だった
- ・具体的な数値や事例などを用いて分かり易かった

7) グループディスカッションの満足度

満足	やや満足	やや不満	不満
24名	4名	0名	0名

理由

- ・たくさん話せた、意見が出た
- ・他施設のスタッフと交流をもて、同じように葛藤しつつも働いている事が分かり頑張ろうと思えた
- ・いろいろなやり方や実情を知れた事で、今後参考にできる事がたくさんあった
- ・他病院の現状がわかった
- ・参考になる部分、共感する部分があり満足できた
- ・他病院の悩みを共有できた
- ・他病院の現状を聞いて、多くの違いをみつけられ、色々協力しあっていきたい
- ・テーマが大きかったが、各々の施設のことがわかった
- ・他院の現状も聞け、情報共有が出来た
- ・他の病院の現状や意見交換する事で自分たちの病院でも生かせる内容もあった
- ・他施設の事が知れてよかった
- ・活発にディスカッションで来た
- ・他施設の方々とディスカッションができ様々な現場での話や自身の苦悩などを話すことができた
- ・他院の事が知れて勉強になった
- ・同じよう悩みを抱えて働く他の助産師と話ができ、少し勇気とやる気が出た

8) 全体（講演・グループディスカッション）を通して、助産師活動に活かせる内容か

とても活かせる	やや活かせる	あまり活かさない	活かさない
20名	7名	1名	0名

理由

- ・関係策や意見交換ができて良かった
- ・自分の助産師活動には活かせると思うが、勤務先でどのように活かせるかが私の課題
- ・だと思う
- ・明日から取り入れていこうと思う
- ・もっと話せると良かった
- ・病院に参加がない為あまり活かさない

9) 交流会は、今後の助産師同士のネットワーク作りに活用できそうか

はい	いいえ	どちらでもない	未回答
17名	0名	9名	2名

理由

- ・機会があれば活用したい
- ・県内の産科は限られているのでとても勉強になったし、共通の話題で話せて楽しかった
- ・なかなか他施設の方と話す機会がなかったのでこれを機に交流が深められると思う
- ・良く話せたが連絡先まで交換していないため

10) 今後、職能集会や交流会で取り上げてほしいテーマ

- ・産科単科が減少し混合病棟が増えている現状で、助産師としてどう活躍していくか
- ・保健指導やマザークラスなどの色々なアプローチを知りたい
- ・出生前診断・分娩介助・おっぱいケア
- ・切迫流・早産の看護について
- ・PIH患者の分娩管理について
- ・分娩監視装置について
- ・新人と共に育つには
- ・先輩助産師としてできることは
- ・分娩介助
- ・母乳指導
- ・産科救急
- ・ALSO

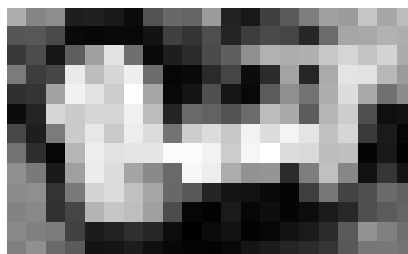
11) 助産師職能委員会に対するご要望

- ・充実した時間、リフレッシュの機会となった
- ・もっと勉強会をやってほしい
- ・他病院への研修制度があればいいと思う
- ・楽しく有意義な時間を過ごすことができた
- ・これからもためになる研修をお願いしたい
- ・他施設の工夫や方法を知ることができ参考になった、改善点も明確になった
- ・先生の講義がとても分かり易かった
- ・また参加したい
- ・レベルⅢ申請の要件を満たしている研修だとさらに良かった

総括：講義内容は事例を用いることでイメージしやすく、即現場で活かせる内容で好評だった。グループディスカッションは、大きなテーマではあったが、他施設の現状を知り、活発な意見交換ができた。また、今後の自己の課題を考える良い機会となった。ネットワーク作りについては、交流は十分行えたが、その後個々で交流につながる行動は取れていない様子だった。しかし、機会があれば活用したいとの前向きな意見が聞かれた。今後ネットワーク構築の目的、および具体的方法の明確化が課題である。今後取り上げて欲しいテーマについては、現場に直結した内容が多く、現状だけでなくより新しい情報を提供していきたい。

4. 「国際助産師の日」企画・開催

- 1) 日 時：平成27年5月23日（土）11:00～16:00
- 2) 会 場：アパホテル&リゾート・東京ベイ幕張
- 3) 内 容：今年度の『看護の日』のテーマに合わせ、『女性が健やかに過ごすために～思春期から更年期 孫育て世代まで～』のテーマで、産科施設紹介に加えて、沐浴体験、マタニティ体験、思春期教育グッズの紹介（子宮モデル・胎児モデル・DVDの視聴）、育児便利グッズの展示、助産師活動の紹介、進路相談、思春期・育児・更年期相談を行った。



5. 「助産師が自立して助産ケアを行う体制づくり —助産師外来・院内助産のための助産マニュアル—」

助産外来・院内助産にむけた実践能力の標準化と質の向上に向けて、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期別のマニュアルの見直しを実施し、3月に完成した。現在配布に向けての準備中である。

6. 千葉県看護協会事業への参加・協力

- 1) 通常総会、役員会、理事会、施設代表者への出席
- 2) 助産師出向支援モデル事業実施への支援

7. 平成27年度千葉県看護協会研修計画への提言

8. 日本看護協会事業への参加・協力

都道府県助産師職能委員会への出席、地区別都道府県助産師職能委員会への出席

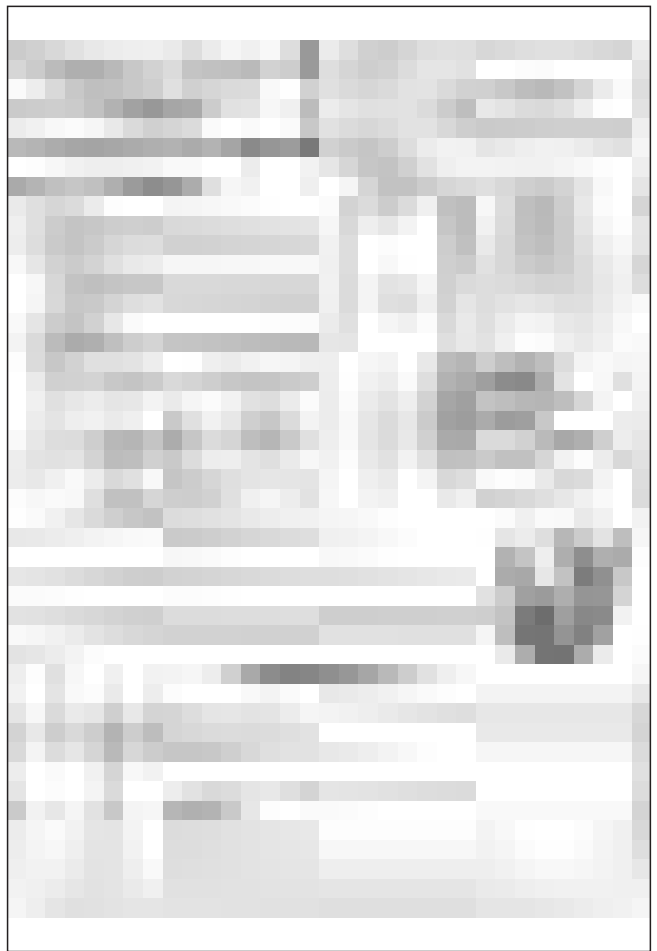
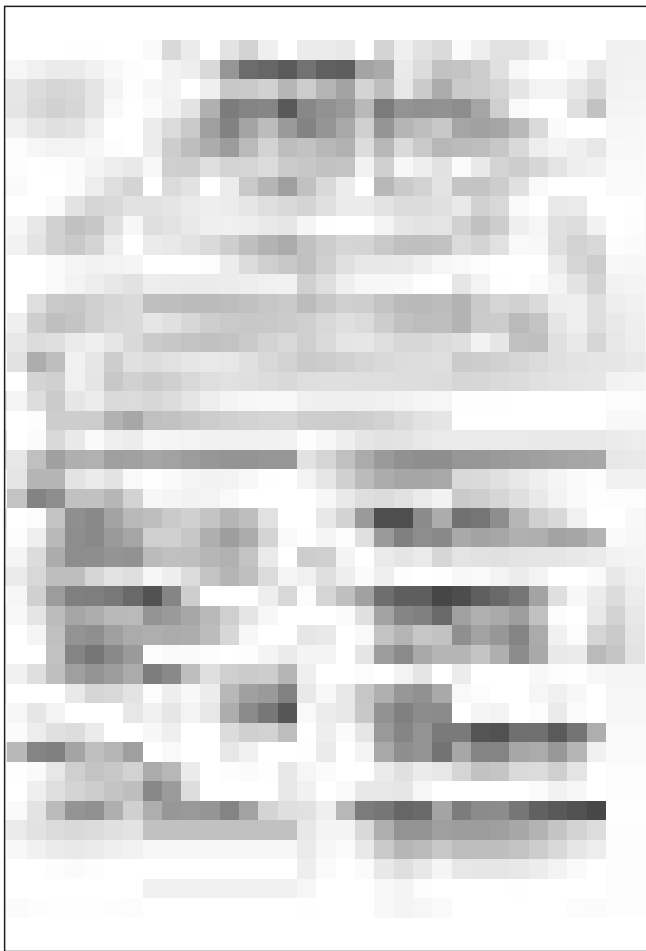
Ⅲ. 平成27年度助産師職能委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成27年 7月14日	1. 職能委員会活動のオリエンテーション 2. 委員長報告 3. 副委員長選出 4. H27年度助産師職能委員会活動計画	・千葉県看護総会定時総会、理事会報告 ・年間計画、交流会：担当者決定、テーマ、日程、事前アンケート検討 ・プログラム決定、業務分担決定
第2回	8月6日	1. 委員長報告 2. 助産師職能集会の企画 3. 産科管理者交流会の企画	・全国職能委員長会報告 ・ICM大会報告 ・地域母子保健に関する課題 ・プログラム・アンケートの検討 ・プログラム・アンケートの検討
第3回	10月28日	1. 委員長報告 2. 助産師職能集会の企画 3. 産科管理者交流会の企画	・都道府県職能委員会報告 ・最終打ち合わせ ・当日役割分担 ・テーマ・内容の確認 ・テーマ・内容の検討
第4回	11月11日	1. 職能集会内容確認 2. 産科管理者研修会の内容確認 3. 中堅交流会の企画	・最終打ち合わせ ・当日役割分担・ テーマ・内容の確認 ・テーマ・内容の検討
第5回	平成28年 1月25日	1. 産科管理者交流会の評価 2. 中堅助産師交流会の最終確認 3. 国際助産師の日イベント企画	・アンケート結果報告 ・役割分担・プログラム確認 ・プログラムの検討
第6回	3月29日	1. 平成27年度のまとめ・平成28年度計画 2. 第2回全国職能委員長会報告 3. 国際助産師の日イベント 4. 中堅助産師交流会の評価	・平成27年度活動内容のまとめ ・平成28年度活動計画検討 ・国際助産師の日の準備 ・アンケート結果報告

Ⅳ. 平成28年度助産師職能委員会 活動計画

項 目	内 容
活 動 目 標	1. 県民の安全かつ安心な妊娠・出産・育児をめざし、助産師が実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する。 2. 会員相互の情報交換を図り、県内助産師間の連携を強化する。
委員会開催予定	1. 助産師職能委員会 年6回程度 2. 三職能合同委員会

項 目	内 容
検討事項及び方法	1. 実践能力の向上 (1) 標準化 ①助産師ラダーの推進 ②「助産師が安心して助産ケアを行うための体制づくり」マニュアルの普及 (2) 質の向上 ①助産師ラダーの普及、推進 ②助産師出向システム構築の支援 ③教育部への研修に関する提案 2. 専門性の発揮 (1) 助産師ラダー推進のための研修の提案・提言 (2) 混合ユニットマネジメント導入の推進 (3) 適正配置の検討 3. 県内の助産師職能の組織力の強化 (1) キャリア及び施設の特性に応じた助産師の情報交換と交流の推進 (2) ネットワークの構築 (3) 助産師だよりの発行 4. 国際助産師の日の企画・運営
交流会等	1. 産科病棟看護管理者交流会の企画・開催 2. 新人助産師交流会（新人助産師研修会への参画） 3. 中堅助産師交流会の企画・開催
職能集会の持ち方	1. 前年度活動報告 2. 本年度活動計画 3. 講演会またはシンポジウム 4. 意見交換
三職能合同委員会	1. 三職能共通課題の検討 2. 職能集会の開催 3. 職能集会資料の作成
そ の 他	日本看護協会 1. 千葉県看護協会助産師職能委員会活動状況報告 2. 日本看護協会助産師職能委員会活動に協力 3. 全国助産師職能委員長会議 年2回 4. 地区別法人会・都道府県助産師職能委員長会 年1回
	印刷物等 1. 職能集会資料
	その他 1. 千葉県看護協会事業への参加・協力 2. 千葉県小児保健協会理事会・総会への参画



看護師職能 I (病院領域) 委員会

委員長 寺口 恵子

I 活動目標

1. 看護師職能が専門性を発揮しながらやりがいをもって働きつづけることができるよう、看護師職能が抱える課題に取り組む。
2. 看護の質向上を図るため、准看護師のスキルアップと進学を支援する。
3. 病院領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた検討を行う。

II 活動内容

1. 看護師職能 I (病院領域) 集会

(1) 日 時 平成27年10月3日 (土) 9:30~12:40

(2) 会 場 千葉県看護会館

(3) テーマ 「看護師がやりがいをもって働き続けられるキャリアデザイン」

(4) ねらい

- ① 専門職としての役割と責任を自覚し、社会ニーズにあった看護実践が提供でき、看護を通して人としても成長できる看護師のキャリアについて考えることができる。
- ② 看護職が自分の将来や進む道（仕事だけではなく個人の生活や人生を含めた将来設計）を考えることができる。

(5) 参加者数 66名

(6) 内 容

- ・ 平成26年度看護師職能委員会活動状況報告並びに平成27年度活動計画
- ・ 講演 「看護の仕事を通して人として生きる」
聖路加国際大学 教授 吉田 千文 先生

(7) 評 価

今回の研修テーマは、看護師のキャリアデザインについて取り上げ、事前アンケートで参加動機として「テーマに興味がある」45%、「講師や内容に興味がある」17%であり、各々キャリアデザインについて興味をもって研修に参加していることが伺えた。

吉田先生の講演は、ご自身の経験も踏まえた講義内容でそれぞれの立場でキャリアデザインについて理解を深めることができた。

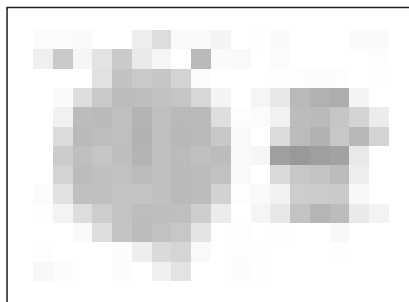
事後のアンケート結果から、「講演内容に興味をもてましたか」で、はいの回答が100%「看護師のキャリアについて考えることができる」で、はいの回答が98%であり、ほぼ満足できる結果となった。参加者の職位も師長・主任が多く、自分自身のキャリアについての振り返りの機会となり、自施設でのキャリア指導の参考にするという意見が多数聞かれ、研修のねらいは、充分達成できたと考える。

(8) アンケート結果 (回収率98.5%)

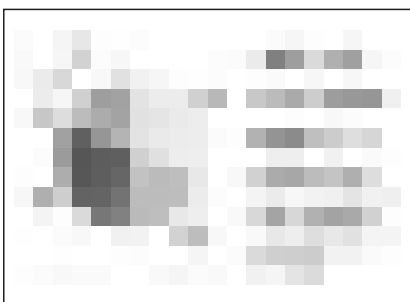
① 施設



② 職種



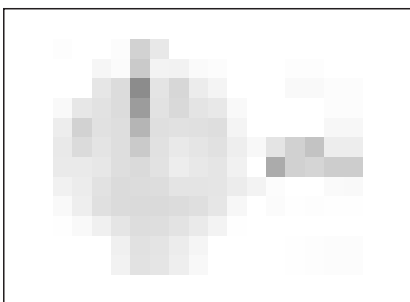
③ 職位



④ 講義内容は興味をもてましたか



⑤ 看護師のキャリアについて
考えることができましたか



⑥ 看護師として自分の将来や進む道について
参考になりましたか



2. 看護師交流会

(1) 日 時 平成27年11月28日 (土) 9:30~13:00

(2) 会 場 千葉県看護会館

(3) テーマ 「入院前から退院後まで患者をコーディネートするPFMシステムとは」

(4) ねらい

我が国の医療環境は、2025年の地域包括ケア時代に向けて医療・介護の制度改革が急速に進められ、地域医療連携体制の強化がますます求められていくものと思われま。今後さらに、在宅療養移行支援のシステム強化やその内容、質が問われることにもなると考えられます。

① 「患者参画型の医療提供」「医療の質向上」を目指したPFMシステムを理解する。

② 退院支援・退院調整の実際を学び、地域との連携強化への取り組みへとつなげていく。

(5) 参加者数 74名

(6) 内 容

・ 講演 「入院前から退院後まで患者をコーディネートするPFMシステムとは」

東京慈恵会医科大学附属柏病院 看護部長 柳澤 美津代 先生

- ・ グループワーク
「退院支援・退院調整の実際を学び、これからの自施設の取り組みを考える」
- ・ ディスカッション

(7) 評価

我が国の医療環境は、2025年の地域包括ケア時代に向けて医療・介護の制度改革が急速に進められ、地域医療連携体制の強化がますます求められていくものと思われます。今後さらに、在宅療養移行支援のシステム強化やその内容、質が問われることにもなると考えられます。

今回、慈恵会医科大学附属柏病院看護部長柳澤美津代先生をお招きして、「入院前から退院後まで患者をコーディネートするPFMシステムとは」について具体的事例を用いて講演していただき、その後グループワークを行ったことで、自施設での退院支援・調整について考える良い機会となったと考えられ、参加者からの評価も良好であり、ねらいは達成できたと考える。

(8) アンケート結果 (回収率98.6%)

① 所属施設

病 院	7 2
診療所	0
その他	1

② 職位

看護部長	3
副看護部長	8
看護師長	1 9
主任看護師	1 3
看護師	2 6
その他	4

③ 講演会の内容は参考になりましたか

は い	7 1
いいえ	0
無回答	2

④ PFMシステムについて理解を深める機会となりましたか

は い	7 1
いいえ	0
無回答	2

3. 准看護師交流会

- (1) 日 時 平成27年1月23日 (土) 13:00～16:30
- (2) 会 場 千葉県看護会館
- (3) テーマ 「准看護師のキャリアアップにむけて」
- (4) ねらい
- ① 日常の看護技術についてスキルアップできる機会とする。
 - ② 進学支援に必要な情報を提供し、進学への動機づけとする。
- (5) 参加者数 49名
- (6) 内 容

- ・ 講演 「高齢者における感染対策ケア」
船橋市立医療センター 感染管理認定看護師 池崎 陽子 先生
- ・ 准看護師の進学支援について
学校教員からの説明
千葉県立野田看護専門学校 第2看護学科 学科長 新榮 こゆき 先生
東京衛生学園専門学校 看護学科通信制 副学科長 秋山 干草 先生
放送大学学園 学務部連携教育課 課長補佐 相場 俊秀 先生

(7) 評 価

今年度の講演のテーマは、感染対策としたため、日々の業務に即実践的に活用できるとあってか、参加者全員が「講演内容に興味をもてた」と回答しており、「とても参考になった」と好評であった。

進学支援については、全日制・通信制の学校の教員からの説明で、より具体的に進学についての情報を聞くことができ、参加者の90%が参考になったと答えており、進学について前向きに考えようという声も聞かれていた。

(8) アンケート結果（回収率93.9%）

① 講演内容は興味がありましたか

はい	46
いいえ	0

② 高齢者における感染対策ケアは参考になりましたか

はい	46
いいえ	0

③ 実践の場で活用できますか

はい	46
いいえ	0

④ 進学支援について参考になりましたか

はい	44
いいえ	1
無回答	1

⑤ 今回の情報は活用できそうですか

はい	46
いいえ	0

Ⅲ 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成27年 7月29日	1. 平成27年度年間計画作成 2. 委員の役割分担について 3. 看護師職能集会について 4. 看護師交流会について 5. 准看護師交流会について	・平成27年度年間計画検討・作成 ・委員の役割・担当について ・看護師職能集会の内容検討 ・看護師交流会の内容検討 ・准看護師交流会の内容検討
第2回	8月21日	1. 全国看護師職能委員長会報告 2. 看護師職能集会について 3. 看護師・准看護師交流会について	・全国看護師職能委員長会Ⅰ、Ⅱ領域の報告 ・看護師職能集会の詳細内容検討 ・各交流会の企画検討
第3回	10月3日	1. 看護師職能集会について 2. 看護師・准看護師交流会について	・看護師職能集会まとめ・評価（中間） ・各交流会の検討
第4回	12月16日	1. 看護師交流会について 2. 准看護師交流会について 3. 平成28年度活動計画について 4. 地区別看護師職能委員長会報告	・看護師交流会まとめ・評価 ・各交流会の内容検討 ・平成28年度目標、活動内容の検討 ・地区別看護師職能委員長会報告
第5回	平成28年 2月17日	1. 准看護師交流会について 2. 平成27年度まとめ・評価 3. 平成28年度活動計画について	・准看護師交流会まとめ・評価 ・平成27年度活動内容のまとめ・評価 ・平成28年度活動計画の検討

IV 平成28年度 看護師職能委員会 I (病院領域) 活動計画

項 目	内 容	
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が専門性を発揮しながらやりがいをもって働き続けることができるよう、看護師職能 I (病院領域) が抱える課題に取り組む。 2. 看護の質向上を図るため、准看護師のスキルアップと進学を支援する。 3. 社会医療制度の動向を知り、看護師職能 I (病院領域) の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた検討を行う。 	
委員会開催予定	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師職能 I (病院領域) 委員会 年6回 2. 看護師職能 I (病院領域) ・ II (介護・福祉関係施設・在宅等領域) 合同委員会 必要時 3. 三職能合同委員会 必要時 	
検討事項及び方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師職能 I (病院領域) の看護職が働き続けられる職場づくりを推進する。 2. 看護師交流会を通して、看護の質向上に対する課題を整理する。 3. 准看護師交流会を通して、准看護師のスキルアップと進学支援に対する課題を整理する。 4. 今後の交流会へのニーズ把握を行い、企画に反映する。 5. 看護師職能 I (病院領域) の看護師が抱える課題を整理する。 	
職能集会交流会等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師職能 I (病院領域) 集会 1回 2. 看護師交流会 1回 3. 第22回准看護師交流会 1回 	
その他の	日本看護協会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県看護協会看護師職能 I (病院領域) 委員会の活動状況報告 2. 日本看護協会看護師職能 I (病院領域) の調査活動に協力 3. 都道府県看護協会委員長会 年2回 4. 地区別法人会・看護師職能委員長会 年1回
	印刷物等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職能集会資料 2. 交流会資料 3. その他
	その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉県看護協会事業への参加・協力 2. 千葉県小児保健協会理事会・総会への参画

看護師職能委員会（領域Ⅱ）

委員長 山崎潤子

I. 活動目標

1. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた取り組みを行う。
2. 千葉県内の介護施設の実態を把握し、Ⅱ領域の看護師職能が抱える課題を抽出する。

II. 活動内容

1. 職能集会

- (1) 日時 平成27年10月8日(木) 13:30～16:30
- (2) 会場 千葉県土地改良会館 4階大会議室
- (3) テーマ 「高齢者ケア施設等における看護職の役割～感染対策を通して～」
- (4) ねらい
 - ① 看護師職能委員会（領域Ⅱ）の内容及び今後の活動方針を知る
 - ② 高齢者ケア施設における感染対策を再認識する
 - ③ 高齢者ケア看護師の役割について学び介護等、他職種の教育・指導に生かすことができる
- (5) 参加者数 98名
- (6) 内容
 - ・講演 「高齢者ケア施設における感染対策」 福祉ビジネス研究所 所長 新田 敦子氏
 - ・グループワーク 高齢者ケア施設等の感染対策における看護師の役割
- (7) 評価

当初30～40名程度の参加を予定してしたが、100名以上の参加申し込みがあり、急遽会場を変更して開催した。アンケート結果からも感染対策は領域Ⅱの看護職に関心が高い分野であり、また感染が多くなる冬を目前にした時期に開催したことも、参加者の増加につながったものと思われる。また病院と施設では環境が異なることから、施設に特化した内容としたことも効果的であったと考えられる。

講師とは事前に打ち合わせを行っていたが、領域Ⅱ単独で開催する企画が初めてだったこともあり、準備の不十分な点も多く反省するところではあるが、参加者の方の大きな混乱はなくスムーズに終了することが出来た。

グループワークも好評であったが、半日の研修としたため時間が短かったという意見もあり、今後の検討課題としたい。

(8) アンケート結果(回収率93%)

① 年齢

20歳代	1
30歳代	13
40歳代	33
50歳代	30
60歳代以上	12

② 勤務先

特別養護老人ホーム	52
介護老人保健施設	32
訪問看護ステーション	1
小規模多機能	1
有料老人ホーム	1
デイサービス	1
障害者支援施設	1
未記入	2

③ 職種の経験年数

1年未満	1
1～5年	8
6～10年	7
11～15年	15
16年以上	35
未記入	25

④ 職位

施設管理者	3
部長	0
師長	14
主任	19
スタッフ	45
その他	10

⑤ 領域Ⅱの活動について説明等について興味を持てましたか

はい	82
いいえ	1
未記入	8

⑥ 講演の内容に興味を持てましたか

はい	88
いいえ	1
未記入	2

⑦ 講演時間は適当でしたか

はい	86
いいえ	3
未記入	2

⑧ グループワークについて

満足	49
やや満足	19
普通	14
やや不満足	1
不満	0
未記入	8

⑨ 職能集会はこれからのことを上考えるで参考になりましたか

はい	88
いいえ	2
未記入	1

2. 交流会

(1) 日 時 平成27年12月3日(木) 13:30~16:30

(2) 会 場 千葉県土地改良会館 4階大会議室

(3) テーマ 「高齢者ケア施設等における看護職の役割～看取りケアを通して～」

- (4) ねらい
- ① 看護師職能委員会（領域Ⅱ）の内容および今後の活動方針を知る
 - ② 高齢者ケア施設等における看取りの概念・対応方法を再認識する
 - ③ 看護職として他職種への指導や教育、連携についての役割を学ぶ

(5) 参加者数 36名

(6) 内 容

- ・ 役員挨拶 「情勢と協会の取り組み」と「看護師職能領域Ⅱに期待する事」
千葉県看護協会 専務理事 澤田 いつ子 氏
- ・ 講 演 「看取りケアについて」
松戸ニッセイエデンの園 老年看護専門看護師 松本 佐知子 氏
- ・ グループワーク
高齢者施設等の看取りケアにおける看護職の役割

(7) 評 価

講演テーマの「看取りケア」についてはアンケート結果からも全員が興味を持っていると答えている。施設での看取りが介護報酬の改定からも推し進められており、看護職として看取りケアの中心を担う立場であり、関心の高いテーマであったと考える。

講師からは、看取りのみでなく高齢者の特徴や尊厳保持など、老年専門看護師の立場からお話を伺うことが出来、日常での高齢者へのかかわりについて学ぶことが出来た。

グループワークでは、現に看取りを行っている施設や、これから行おうとしている施設などさまざまであったが、「他施設の現状が聞けて参考になった」などの意見があり、各施設での看護職が少ない中で、情報交換の場としても有用であった。施設での看取りについては課題もまだまだ多いと考えられ、次年度以降も継続して検討していくべきテーマではないかと思われる。

今回、協会役員により協会活動についての説明をする時間を設けた。通常の研修などでは病院領域が主体でありギャップを感じている方も多いようであり、領域Ⅱの活動について興味を持ってくださる方が多かった。領域Ⅱの看護職の声を生かしながら次年度の活動につなげていきたいと考えている。

(8) アンケート結果(回収率100%)

① 年齢

20歳代	0
30歳代	6
40歳代	18
50歳代	9
60歳代以上	3

② 勤務先

特別養護老人ホーム	14
介護老人保健施設	18
訪問看護ステーション	3
有料老人ホーム	1

③ 職種の経験年数

1～5年	8
6～10年	5
11～15年	5
16年以上	17
無記入	1

④ 職位

部長	1
師長	2
主任	5
スタッフ	26
その他	2

⑤ 看護師職能委員会
領域Ⅱの活動説明に
興味が持てましたか

はい	33
いいえ	3

⑥ 講演の内容に興味は
持てましたか

はい	36
いいえ	3

⑦ グループワークについて

満足	22
やや満足	7
普通	5
やや不満	1
不満	0

⑧ 時間は適当でしたか

はい	30
いいえ	5
無記入	1

⑨ 交流会はこれからのことを考える
上で参考になりましたか。

はい	33
いいえ	0
無記入	3

3. 実態調査

委員会活動を行っていくうえで、基礎的な資料が少なく、千葉県での領域Ⅱの課題を抽出するため、実態調査を計画した。勤務状況と研修の実態を中心とした調査票を作成し、千葉県内の全事業所に配布する方向で準備を進めていたが、タイムスケジュール的な問題と今年度日本看護協会にて、領域Ⅱの看護職を対象とした調査を行っており、その結果を踏まえて調査内容を再考するべきではないかとの意見があり、次年度に引き継ぎ検討を行うこととした。

4. 千葉県看護協会等への協力

- ・ 千葉県看護協会教育委員会のヒアリング（9月17日(木)開催）に参加（2名）

Ⅲ 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成27年 7月29日	1. 平成27年度活動計画 2. 委員の役割分担 3. 看護師職能集会について	・領域Ⅱ委員会の立ち上げの経緯について ・委員の紹介と、役割分担の確認 ・平成27年度活動計画の検討 ・領域Ⅱで働く看護職が持つ課題について 検討
第2回	9月10日	1. 看護師職能集会について 2. 看護師交流会について 3. 実態調査について 4. 他団体との連携について	・職能集会打ち合わせ ・交流会打ち合わせ ・実態調査の概要の検討 ・千葉県看護協会教育委員会のヒアリング 参加の打ち合わせ ・領域Ⅱと関連する団体との連携について
第3回	9月11日	1. 看護師職能集会について	・職能集会講師との打ち合わせ
第4回	10月8日	1. 看護師職能集会について 2. 看護師交流会について	・看護師職能集会最終打ち合わせ ・交流会打ち合わせ
第5回	11月5日	1. 看護師職能集会について 2. 看護師交流会について 3. 平成28年度活動計画について	・看護師職能集会のまとめ・評価 ・看護師交流会打ち合わせ ・平成28年度活動計画の検討
第6回	12月3日	1. 看護師交流会について 2. 実態調査について	・看護師交流会最終打ち合わせ ・実態調査内容の検討
第7回	平成28年 2月4日	1. 看護師交流会について 2. 実態調査について 3. 平成27年度まとめ 4. 平成28年度活動計画について	・看護師交流会のまとめ・評価 ・実態調査の実施の検討 ・平成27年度活動内容のまとめ・評価 ・平成28年度活動計画の検討

IV 平成28年度 看護師職能委員会（領域Ⅱ）活動計画

項 目		内 容
活動目標		1. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の役割を考え、看護の質向上に向けた取り組みを行う。 2. 千葉県内の介護施設の実態を把握し、領域Ⅱの看護師職能が抱える課題を抽出する。
委員会開催予定		1. 看護師職能委員会(領域Ⅱ) 年6回 2. 看護師職能領域Ⅰ・Ⅱ合同委員会 必要時 3. 三職能合同委員会 必要時
検討事項及び方法		1. 看護師職能領域Ⅱ集会の開催 2. 看護師職能領域Ⅱ交流会の開催 3. 介護・福祉関係施設・在宅等領域の看護の実態調査
そ の 他	日本看護協会	1. 千葉県看護協会看護師職能委員会領域Ⅱの活動状況報告 2. 日本看護協会看護師職能委員会領域Ⅱの調査活動に協力 3. 都道府県看護師職能委員長会 年2回 4. 地区別看護師職能委員長会 年1回
	印刷物等	1. 職能集会資料 2. 交流会資料 3. その他
	その他	1. 千葉県看護協会事業への参加・協力 2. 千葉県小児保健協会理事会・総会への参画

日本看護協会関係報告

会長 星野 恵美子

法人会報告及び職能委員長会報告

I 法人会会員会（全国）

1 平成27年度 第1回法人会会員会

日時 平成27年5月8日(金) 13:00~16:00

場所 JNAホール

議題 平成27年度の事業等について

2 平成27年度 第2回法人会会員会

日時 平成27年7月31日(金) 13:00~16:00

場所 JNAホール

- 議題
- (1) 地域における看護政策力強化について
 - (2) 地域医療構想の策定に向けた会議への参画について
 - (3) 准看護師教育に関する動きについて
 - (4) 平成27年度地区別法人会会員会プログラムについて
 - (5) その他

3 平成27年度 第3回法人会会員会

日時 平成27年9月25日(金) 15:00~16:00

場所 JNAホール

- 議題
- (1) 基金等について
 - (2) その他

4 平成27年度 第4回法人会会員会

日時 平成27年11月27日(金) 13:00~16:00

場所 JNAホール・会議室

- 議題
- (1) 都道府県看護協会への会員登録事務業務委託について
 - (2) 都道府県看護協会の現状や課題についての意見交換
各ブロックに分かれて意見交換
関東甲信越地区 3階 301会議室
(担当 福井常任理事)
全体意見交換 (各ブロックからの報告を含む)
 - (3) その他

5 平成27年度 第5回法人会会員会

日時 平成28年2月19日(金) 14:00~16:00

場所 JNAホール

- 議題
- (1) 新会員管理体制の移行について
 - (2) 都道府県看護協会の現状や課題についての意見交換
各ブロックに分かれて意見交換
関東甲信越地区 3階 301会議室
(担当 福井常任理事)
全体意見交換
(各ブロックからの報告を含む)
 - (3) 都道府県の就学資金貸与について
 - (4) その他

II 地区別（関東甲信越地区）法人会会員会

日時 平成27年10月22日(木) 9:30~20:30

場所 オークラフロンティアつくば（本館）

法人会会員連絡会 9:30~12:30

- (1) 各法人会会員間の情報交換・連絡調整

法人会会員会 13:30~18:00

- 議題
- (1) 新たな財政支援制度（基金）について
 - (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けた都道府県看護協会の動きについて
 - (3) 会員情報管理体制について
 - (4) 准看護師制度について
 - (5) NCCSの開発進捗状況報告について（報告）
 - (6) 特定行為に係る看護師の研修制度について（報告）

懇親会 18:30~20:30

職能委員長会報告（全国・地区別）

I 全国職能委員長会報告

1 平成27年度第1回全国職能委員長会

日 時 平成27年8月3日（月） 10：00～16：00

場 所 青山ダイヤモンドホール

（全体会）10：00～12：00（ダイヤモンドルーム）

10：00～10：20 会長挨拶

10：20～11：40 報告事項

11：40～12：00 質疑応答

〈保健師職能委員長会〉

13：00～16：00（エメラルドルーム I）

議 題

(1) 平成27年度日本看護協会保健師関連事業及び保健師職能委員会活動について

(2) 講演 「医療と介護の一体改革における取り組み～期待が高まる保健活動～」

(3) 地区別グループ討議 テーマ「地域包括ケアシステムの構築に向けて」

・地域医療構想（ビジョン）策定の進捗や課題を踏まえた多職種連携の仕組みづくりについて

・少子高齢社会を意識した保健・医療・福祉・介護の連携における保健師の活動について

①趣旨説明

②グループ討議・発表

③委員長まとめ

〈助産師職能委員長会〉

13：00～16：00（エメラルドルーム II）

議 題

(1) 山口県助産師職能委員会の連携について

(2) 平成27年度重点政策・重点事業（助産関連事業）について

(3) 平成27年度助産師職能委員会について

(4) 「地域医療介護総合確保基金」における助産関連事業について

(5) グループ討議 「地域母子保健における現状と課題」

(6) 委員長まとめ

〈看護師職能委員長会 I 病院領域〉

13：00～16：00（サファイヤルーム I）

(1) 平成26年度看護師職能委員会 I 病院領域の活動方針について

(2) 地区別グループ討議

「変化する医療提供体制に応じた看護師長の役割について」

「外来に通院する患者が状態を悪化させることなく在宅医療を継続するための看護師の活動について」

1) 趣旨説明

2) グループ討議・発表

(3) 委員長まとめ

〈看護師職能委員長会 II

介護・福祉関係施設・在宅等領域〉

11：30～16：00（サファイヤルーム II）

議 題

(1) 平成27年度重点政策・重点事業について

(2) 平成27年度活動方針について

(3) 関連事業報告

(4) 講演 「高齢者の長期療養における看護管理者の役割と能力（仮）」について

(5) 地区別グループ討議 「高齢者ケア施設等で働く看護管理者のあり方」について

(6) 発表・まとめ

2 平成27年度第2回全国職能委員長会

日 時 平成28年3月11日（金） 10：00～16：00

場 所 青山ダイヤモンドホール

全体会 10：00～12：00（ダイヤモンドルーム）

報告事項

(1) 平成27年度重点政策・重点事業報告および平成28年重点政策・重点事業計画について

(2) 新会員情報管理体制について

〈保健師職能委員長会〉

12：50～16：00（エメラルドルームⅠ）

議 題

- (1) 平成27年度保健師職能委員会活動報告（意見集約・課題発見）
 - ①統括保健師の配置推進に向けた取り組み
 - ②地域包括ケアシステムの推進に関する取り組み
- (2) 「新会員管理体制について（仮）」
- (3) 平成27年度保健師関連事業報告、平成28年度重点政策・重点事業（保健師関連）
- (4) 都道府県看護協会保健師職能委員会活動報告
 - ①「包括保健師の配置の推進に向けて」 熊本県看護協会保健師職能委員等
 - ②「保健師の会員獲得、ネットワーク強化に向けて」 栃木県看護協会保健師職能委員長
- (5) ディスカッション
「最新情報！保健師のキャリア形成について」

〈助産師職能委員長会〉

13：00～16：00（エメラルドルームⅡ）

議 題

- (1) 平成27年度助産師職能委員会活動報告
- (2) 平成28年度重点政策・重点事業（助産関連）
- (3) 平成28年度助産師職能委員会活動方針
- (4) CLoCMiPレベルⅢ認証制度
平成27年度の評価と平成28年度の審査について
- (5) 産科医療補償制度「再発防止に関する報告書」等の利用状況について
- (6) 「医療事故調査制度」について
- (7) 「助産師が行うウイメンズヘルスケアに関する実態調査」について

〈看護師職能委員長会Ⅰ 病院領域〉

13：00～16：00（サファイヤルームⅠ）

議 題

- (1) 平成27年度看護師職能委員会Ⅰ病院領域 活動報告
- (2) 平成28年度看護師職能委員会Ⅰ病院領域 活動方針
- (3) 関連事業報告

「『特定行為に係る看護師の研修制度の活用』について」（実践者からの活動報告）

- (4) 関連事業報告「医療事故調査制度」について
- (5) 情報提供「外来に通院する患者が在宅療養を継続するための看護師の活動に関するヒアリング結果」について
- (6) 地域別グループ討議
「外来に通院する患者が状態を悪化させることなく在宅療養を継続するための看護師の活動に関する課題」について

〈看護師職能委員長会Ⅱ

介護・福祉関係施設・在宅等領域〉

13：00～16：00（サファイヤルームⅡ）

議 題

- (1) 平成27年度看護師職能委員会Ⅱ 活動報告
- (2) 関連事業報告
- (3) 平成28年度重点政策・重点事業（在宅看護関連）
- (4) 平成28年度看護師職能委員会Ⅱの活動方針
- (5) 特別委員会報告「在宅で認知症の人を支えるための連携・協働に関する検討委員会」
- (6) 調査報告「特別養護老人ホーム・介護老人保健施設における看護職員実態調査」
- (7) 平成28年度社会保険診療報酬改定の概要について
- (8) 地区別グループ討議
 - ①各都道府県看護協会における次年度計画についての報告
 - ②高齢者ケア施設の看護管理者交流会の実施経過について

II 地区別（関東甲信越地区）職能委員長会

平成27年度地区別職能委員長会

日 時 平成27年10月23日（金）9：00～15：00

場 所 オークラフロンティアホテルつくば（本館）

（保健師職能委員長会）

報告事項 職能委員会報告

協議事項

- (1) 統括保健師の配置の推進について
～活動指針発出から1年半を踏まえて～
- (2) 地域包括ケアシステムの構築について
- (3) 都道府県内の保健師ネットワークの推進について

（助産師職能委員長会）

報告事項

- (1) 職能委員会報告
- (2) 厚生労働省看護職員確保対策特別事業「助産師
出向支援モデル事業」について
- (3) 助産実践能力習熟度段階(クリニカルラダー)レ
ベルⅢ申請に向けて

協議事項

- (1) 助産師の必要人数算出の考え方について情報交換
- (2) その他

（看護師職能委員長会Ⅰ 病院領域）

報告事項

- (1) 職能委員会報告
- (2) その他

協議事項

- (1) 病院領域における在宅療養支援の取り組みに関
する情報交換
- (2) 看護師として専門性を発揮し続けるためのキャ
リア支援に関する情報交換
- (3) その他
 - ① 「病院における認知症患者の支援」に関する情
報交換について
 - ② その他

（看護師職能委員長会Ⅱ

介護・福祉関係施設・在宅等領域）

報告事項

- (1) 職能委員会報告
- (2) 関連事業報告
 - ① 地区別高齢者ケア施設の看護管理者交流会の
開催
 - ② 特別委員会「在宅で認知症の人を支えるため
の連携・協働に関する検討委員会」
 - ③ 特別委員会「在宅・介護領域における看護と
介護の連携推進委員会」
 - ④ 訪問看護師養成コアカリキュラム及び指導要
綱の試行・検証事業
 - ⑤ その他

情報提供

- (1) 介護報酬改定の議論の動向

協議事項

- (1) 平成27年度都道府県看護協会看護師職能委員会Ⅱ
委員会活動に関する情報交換と課題整理
- (2) 看取りケアに関する研修プログラムの普及啓発
に関する検討
- (3) 地域で認知症の人を支えるための「病院と地域
の連携・協働」に関する検討

常任委員会及び推薦委員会報告

教 育 委 員 会

委員長 増淵 美恵子

I 活動のまとめ

<p>諮問事項</p>	<p>超高齢社会を見据えた生涯教育の在り方 ・質の高い看護を提供するための人材育成 ・会員にとって魅力ある研修の検討</p>
<p>現状と課題</p>	<p>昨年度から継続している諮問事項を踏まえた本年度の課題は、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年度検討した学習段階別教育計画は、協会員のラダーについての理解と開催プログラムの内容と設定レベルの整合性、日看協のラダーの開発等が障壁となり、今年度の教育計画では反映できなかったため、生涯教育研修計画に記載させる内容を整備する。 2. 介護・福祉関係施設・在宅等に就労する看護職をはじめ、高齢社会、地域包括ケアの時代に対応できる研修のパッケージ化などを検討する。 <p>尚、看護研究学会の運営は、昨年度より千葉県看護研究学会実行委員会を設置し、教育委員会の代表が参加して運営することになっているため、教育委員会では、看護研究学会の進捗報告をすることになっている。</p>
<p>検討内容</p>	<p>〔検討内容・過程〕 〔委員会開催状況：5回開催（別紙に詳細を記載）〕</p>
<p>検討結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本課題は、学習段階設定をした場合、施設のクリニカルラダーとの整合性が不明瞭となり、混乱が予測されるため、JNAが示した文言「学習段階設定」を使用し、研修毎に段階を設定し提案した。ただし、対象・条件を付記し、段階と合わせて参加の検討ができるようにした。この学習段階設定は、看護職の実践能力<看護実践能力><組織的役割遂行能力><自己教育・研究能力>の3つの側面より構成されており、これをⅠ～Ⅳの4段階に分けている。この指標を用いて、それぞれの看護職が自らの実践段階と対比させ、自身が学ぶべき学習内容を含んだ研修を選択できるように提示した。さらに、前年度までの研修との違いや施設のクリニカルラダーとの違いに対する対応などをQ&Aで説明した。また発信方法は、HPでの周知、施設代表者会議での告知、広報誌「看護ちば」への掲載、また、介護施設、訪問看護ステーションなど全県下の看護職がいる施設へのフライヤーの送付が挙げられた。その他、質問に関する窓口は、教育部で受け、教育委員会と協議し回答することが提案された。 2. 高齢社会、地域包括ケアの時代に対応できる研修のパッケージ化とは、介護施設等に就労する看護職を対象とした履修モデル（役割に応じ複数年で履修する研修項目の組み合わせ）であり、施設において高い倫理観と看護実践能力を発揮しながら多職種協働の中でリーダーシップを発揮し、高齢者の生活を支える看護師を育成することを目的に検討した。履修モデルは、特養と老健別にそれぞれ実践者と管理者に分け、現在の生涯教育研修計画の研修会名から列挙して作成した。既存の研修の中の一部（認定看護管理者教育課程等）の受講を含めて考えているため、それらの履修の許可が必要となる等、運用の詳細（定員、費用、複数年に及ぶ計画）について確認を要する。 3. 看護研究学会は、「想いをかたちに 看護で未来をつなげる」のテーマの下、2016年2月26日（金）アパホテル&リゾートにおいて、479名の参加を得て開催された。特別講演は、NPO法人マナー教育サポート協会理事長岩下宣子氏「専門職としてきらきら輝くために～想いやりの心を伝えることば術～」のテーマで行われ、参加者は熱心に聞き入っていた。また、昨年引き続き、順天堂大学看護学部准教授島田広美氏によるミニレクチャー「看護実践を伝えたい～伝わるプレゼンテーションのコツ～」が行われ、大変わかりやすい内容であった。一般演題は46題が発表され、日常の臨床課題が研究として取り上げられていた。
<p>今後の課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習段階に合わせた教育研修プログラムを提案したが、2016年6月頃に日本看護協会よりクリニカルラダーが提示される予定であり、それに伴う学習段階が5段階と変更される可能性があることから、平成28年度から研修プログラムを変更することは見送られた。新クリニカルラダー公表後、内容の摺りあわせを行い、次年度実施に向け検討する。 2. 研修会および学習段階別表示導入の評価方法に関して検討する。

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議題	内容
第1回	平成27年 7月30日	<ol style="list-style-type: none"> 平成27年度教育委員会諮問事項の確認と年間事業計画 千葉県看護研究学会実行委員会について 	<ol style="list-style-type: none"> メンバー紹介後、諮問事項を確認する。今年度は、看護師職能Ⅱ領域の教育委員会のメンバーが不在となったため、本領域職能委員に出席を依頼することとなった。 千葉県看護研究学会規程と同時実行委員会設置要綱の説明があり、教育委員会から増渕委員長が出席することになった。
第2回	平成27年 9月17日	<ol style="list-style-type: none"> 地域や福祉施設に勤務する看護師等のニーズを踏まえた生涯教育研修計画についての意見交換 千葉県看護研究学会実行委員会報告 	<ol style="list-style-type: none"> 看護師職能委員会領域Ⅱより山崎委員長、川端委員に参加戴き、本領域の学習及び教育ニーズを確認した。①本領域は、会員が少ないことから、会員を増やすための手段の一つとしてⅡ領域を対象とした研修会の開催を考えているものの、雇用形態がさまざまであることから研修受講の時間確保が難しい。②病院（治療優先の場）からの転職者が多いので、生活の場での看護の視点についての研修が必要である。③eラーニング等は、インフラ環境が整っていないため難しい。④学習ニーズに関しては、訪問と（介護）施設では異なるが、共通項目として「フィジカルアセスメント」「急変時」「看取り」「感染」。⑤研修タイトルなど研修の案内のPRにも力を入れていく必要がある。⑥一度研修に参加して終わるのではなく、継続的に複数回に渡るシリーズ化すると良い。⑦職位がたくさんあるわけではないので、研修を積み上げていったらある程度の承認が得られるようなステータスを与えられると良い。などが挙がり、研修項目や方法を吟味していくことになった。 第34回千葉県看護研究学会は、2016年2月26日（金）アパホテル&リゾートで開催される。テーマは「想いをかたちに 看護で未来をつなげる」とし、一般演題46題の発表予定である。特別講演は、NPO法人マナー教育サポート協会理事長岩下宣子氏「専門職としてきらきら輝くために～想いやりの心を伝えることば術～」に決定した。
第3回	平成27年 10月22日	<ol style="list-style-type: none"> 平成28年度教育計画の提案内容の検討 	<ol style="list-style-type: none"> 前回の内容を検討した。①本年度の検討領域は、特養と老健としてパッケージした研修（履修モデル）を示す。②パッケージにした研修は、単年度でなく、複数年度で受講可能な形態で考え、スタンプ等で履修した研修を可視化する。③広報方法は、県の老健協議会や看護師職能Ⅱ領域の委員会、また施設代表者会議等を活用して行う。 2グループに別れ、第3～4回を使い作業を行なう。（①特養と老健を対象にした研修の履修モデル作成、②会員に配布する生涯教育研修計画に学習段階別教育を説明する内容作成）

第4回	平成27年 11月19日	1. 平成28年度教育計画の提案内容の 検討（グループ別作業）	<p>1. 1G：施設において高い倫理観と看護実践能力を発揮しながら多職種協働の中でリーダーシップを発揮し、高齢者の生活を支える看護師を育成することを目的に履修モデルは、特養と老健別にそれぞれ実践者と管理者に分け、現在の生涯教育研修計画の研修会名から列挙した。</p> <p>2G：平成27年度生涯教育計画案（千葉県看護協会研修事業）の追加案を作成した。学習段階設定に関する説明を明文化し、想定される質問をQ&Aで示した。発信方法は、HPでの周知、施設代表者会議での告知、広報誌「看護ちば」への掲載、また、介護施設、訪問看護ステーションなど全県下の看護職がいる施設へのフライヤーの送付が挙げられた。</p>
第5回	平成28年 1月21日	1. 平成28年度研修プログラム案報告・ 日本看護協会クリニカルラダー説明会の報告	<p>・49コースを予定している。学習段階別表示に関しては、日本看護協会クリニカルラダーが作成中であり、その発表後に内容の摺りあわせをするため、次年度は現行のままの提示方法となったことが報告された。また、研修の評価をはじめ、学習段階別表示導入の評価方法が難しいとの教育部からの意見があり、検討が必要である。</p>

労働環境改善委員会

委員長 伊藤 恵美

I 活動のまとめ

<p>諮問事項</p>	<p>働き続けられる職場環境づくりを推進するための戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人常勤看護職員と全常勤看護職員の離職率の低減 ・ワーク・ライフ・バランスの推進 ・潜在看護職員の掘り起こしと就業支援
<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のナースセンターの取り組みについて情報把握と検討 ・潜在看護職の掘り起こしに関する提言の検討 ・看護師登録制度の活用について ・就業支援について ・啓発リーフレットの検討 ・ナースセンター事業活性化に向けた見直しの検討
<p>検討内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検討課題について方向性を検討 諮問事項、現状課題について確認し27年度事業計画作成 ナースセンターの取り組みについて情報把握と検討 2. 潜在看護師掘り起こしに関する提言事項の検討 看護職登録制度の活用について 3. 就業支援についての検討 (ナースセンターとハローワークとの連携と活用の検討) 千葉県看護職不足の現状、離職看護職届出制度の詳細 ハローワークと連携した就業相談状況確認 4. 看護職が働き続けられる啓発リーフレットの検討 5. ナースセンター事業の活性化に向けた見直しを検討 6. 1年間のまとめ
<p>検討結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検討課題について方向性を検討する。 ナースセンターの取り組みについて情報把握と検討 <現状> 地区で合同就職説明会開催、未就労看護職者の交流会も開催。参加者が口コミで広がるのを期待し、再就業にあたり何が不安かの調査を要する。訪問看護基礎研修会は、年2回開催。就業相談支援体制は3名に。ハローワークとの連携事業においてナースセンター登録促進を。 <具体策> ・ナースセンター・ハローワーク連携事業の推進。(全てのハローワークとの連携) ・民間就業紹介業者との差別化を図る。 ・看護学校へ出向き、新卒者にナースセンター事業を周知し潜在看護師を減らす。 2. 潜在看護師掘り起こしに関する提言事項の検討 看護職登録制度活用について <現状> ・看護基礎技術研修会30名参加、7名が就業。 ・離職看護職届出制度が10月開始、代行届出も可。範囲が看護教員、行政職、免許取得後の未就業の場合も届出義務あり。 ・施設側の求人登録は少なく、大規模病院よりも小規模病院、診療所の求人が多い。 ・ナースセンターには、各種事業による就業支援取り組み成果への期待が高い。 <具体策> 求人施設の登録が少ない。Eナースセンター登録について広報が必要。地区部長会、施設等会員代表者会、地区連絡会等で広報。郵便局、銀行、市役所、コンビニ、歯科医師会へ協力要請を。登録しやすいシステム、登録数の増加をねらう。 地区部会と共催で行う合同就業説明会は、各々役割の再確認し過負担部分は、ナースセンターも支援強化。 3. 就職支援についての検討 ナースセンター・ハローワークの連携と活用の推進 <現状> ・千葉県の常勤看護離職率は、12.8%、新卒7.9%、全国平均11%、7.5%で平均より高い(2014年度日本看護協会調査)日本看護協会のワークライフバランス推進事業は29年度に終了するが、継続が大切。新卒者の県内施設への就業率は、67%と向上。離職看護職の

<p>検討結果</p>	<p>届出制度の対象及び届出事項の説明を受け、転職するにも届出が必要な事を知った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークとの連携では、福祉人材コーナーのある千葉・松戸・成田・船橋とコーナーのない木更津ハローワークで就業相談推進アドバイザーを配置、情報共有し、再就業支援の実施。ハローワーク来所者にナースセンターへの登録を勧奨。 ・離職看護職届出制度が始まり届出状況は、10月90名の届出90歳代の届出もあり。すぐ働きたいか、いずれか分けて対応。11月40名電話連絡し21名連絡済。 <p><具体策></p> <p>離職看護職届出制度が浸透するための広報活動を進めていく。ワークライフバランスを推進では、インデックス調査等は施設の現状を了知するため必要。県の医療勤務環境改善部署へ実施継続の依頼。Eナースセンターの登録、施設側や求職者へ啓発活動の推進。</p> <p>4. 看護職が働き続けられる啓発リーフレットの検討 千葉県ナースセンター利用案内リーフレットの内容改善。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を看護職者向け、施設向けにと区分し分かりやすくする。 ・看護協会非会員に対し利用できることを周知。 ・リーフレットの配布場所の工夫（ハローワーク、駅、空港等） <p>5. ナースセンター事業の活性化に向けた見直しを検討</p> <p>1) ナースセンター認知・周知活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護協会非会員に対し利用できることを周知 ・看護技術講習会は、ハローワークやホームページからの参加者が多いので継続し実施。 ・新卒者への周知の為、入会案内のパンフレットとともにナースセンターパンフレットを同封し配布。 ・看護学校連絡協議会、看護学生の就職活動開始時期などで届出制度とともにナースセンターについての周知。 <p>2) ナースセンター事業（潜在看護師交流会の持ち方の検討）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再就業セミナーの活動は継続・充実。 ・ハローワーク巡回相談員派遣、電話相談等への対応充実。 ・技術講習会を受講者の就業率は微増中。同様事業を増やす。 ・就業相談の場所は利便性を考慮。 ・地区部会と共催で行う合同就業説明会は、各々役割の再確認し過負担部分は、ナースセンターも支援強化。 ・「まちの保健室」で就業支援継続。 ・ナースセンター・ハローワーク連携事業の推進強化。 <p>3) 民間就業紹介業者との差別化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術講習会を受講者の就業率は微増中。同様事業を増やす。 ・ナースセンター登録利用による就業だけでなく相談等就業支援利用者数のデータ等を基に活動を計画。 <p>4) ナースセンターの組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナースセンターの組織を再構築する必要性について（センターの管理、さらに責任ある運営の実施） <p>6. 1年間のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師届出制度への登録を促進。 ・ナースセンターの周知をさらに促進。 ・ナースセンターの求人情報が充実するようシステムを構築。 ・技術講習会など「県民だより」活用し広報。 ・多様な勤務形態システム構築のために、事務職も参画促進。
<p>今後の課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 潜在看護職掘り起しの為、離職看護職届出制度の広報。（地区部会長会、施設等会員代表会、地区連絡会、看護学校等） 2. Eナース登録は、施設側や求職者へ広報し登録促進。 3. ハローワークとナースセンターの連携による就業相談支援継続。 4. WLB推進事業は29年度以降も継続のため県へ協力依頼。 5. 千葉県ナースセンターの管理、さらに責任ある運営の実施。 6. 再就職への意欲を支援する事業を増やす。（再就職支援セミナー、看護技術講習会、潜在看護師交流会など） 7. 多様な勤務形態システム構築のために、事務職も参画促進。

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議題	内容
第1回	平成27年 7月21日	検討課題について方向性を検討	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのハローワークとナースセンターと連携の検討。 ・民間就業紹介業者との差別化、潜在看護職の交流会の持ち方の検討。 ・新卒者へのナースセンターの周知
第2回	平成27年 10月20日	潜在看護師掘り起しに関する提言事項の検討 看護職登録制度の活用について	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職登録制度がスタート、145件の登録あり。制度の広報が必要。 ・新聞、銀行、郵便局などで広報、歯科医師会へ協力要請。
第3回	平成27年 11月17日	就業支援についての検討 (ハローワークとナースセンターの連携と活用の検討)	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県の看護師不足は、全国ワースト2位。新卒者県内就職率は、67%と上昇。 ・ナースセンターとハローワーク連携事業では、就業相談支援アドバイザーを配置。 ・eナースセンターの登録は、6ヶ月で終了となることを周知。登録期間の延長、抹消の場合の継続有無の問合せシステムの確認 ・ワークライフバランス事業が29年度終了予定、県の医療勤務環境改善センターへの事業継続の検討を。
第4回	平成27年 12月15日	看護職が働き続けられる啓発リーフレットの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県ナースセンター利用案内リーフレットの内容要改善。看護協会非会員でも利用可を明記。 ・再就業講習会の案内に受講しやすい条件の明記。(1日も可、無料、託児施設の有無、講習施設での就職義務不要など) ・リーフレットの配布場所の工夫 (ハローワーク、駅、空港など)。
第5回	平成28年 2月16日	ナースセンター事業の活性化に向けた見直しを検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ナースセンターの認知周知活動 ・ナースセンター事業拡大 (再就業支援セミナー、相談員による電話相談など)。 ・民間就職紹介事業者との役割の差別化。技術講習会利用者で低就業意欲者への就業支援。 ・ナースセンターの組織を再構築する必要性について (センターの管理、責任ある運営の実施)
第6回	平成28年 3月15日	年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師届出制度への登録促進。 ・ナースセンターの周知促進。 ・ナースセンター求人情報の充実 ・「県民だより」を活用した就職支援事業の広報。 ・多様な勤務形態のシステム構築のため、講習会を開催 (事務職参加の促進)

医療安全委員会

委員長 小賀坂 好子

I 活動のまとめ

<p>諮問事項</p>	<p>安全な看護を提供するためにチーム医療を推進する戦略 ・チーム医療推進のための行政、関係機関等の連携 ・組織で取り組む安全文化の醸成</p>
<p>現状と課題</p>	<p>現状 医療安全推進対策の組織的な取り組みの推進 課題 ・チーム医療を推進するための多職種との連携を強化する。 ・行政を含めた関係機関との連携づくり ・医療安全を推進する組織体制づくり</p>
<p>検討内容</p>	<p>〔検討内容・過程〕 ・委員会開催状況：6回の開催（別紙に詳細記載） ・課題となるチーム医療推進に向け行政・多職種関連機関等の連携づくりに繋がる意見交換・情報の共有を行った。特に10月1日から施行された医療事故調査制度の法制化で求められている事を明確化する為、制度の成り立ちや運用上の留意点を深め制度の正しい理解に向けた働きかけを検討した。また、多職種連携を強化する意味においても所属機関で活躍する医療安全担当者への働きかけについて検討を重ねた。</p>
<p>検討結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. より実効性の高い医療安全を確保するためには、組織で取り組むことが不可欠との観点から連携強化が図れる意見交換を多職種で実施した。医療安全の意識を高め、周知を図る一つと捉え「医療安全大会」の企画段階から、企画運営に参画した。具体的には、以下のとおり行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 大会テーマを「多職種連携で前進する医療安全」と題しサブテーマを『医療事故調査制度の法制化で求められるもの』とした。 2) 医療事故調査制度の法制化から求められるものを具現化するための講演・報告と身近に実践する方法や参加者が楽しみながら医療安全を考える構成について検討を行った。 3) 多職種から応募のあった標語の選定・企業展示による周知活動を行った。 4) より多くの大会参加者、特に多職種が集う会をめざし検討を行った。 2. 医療安全を推進する組織体制づくりを担う医療安全担当者交流会の開催にあたっては、看護職と他職種との連携と、現場に即した院内教育に焦点をあて、実践力を高める構成とするよう以下のように提言を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 他職種連携とし、薬剤師・臨床工学技士の講演や実技演習を実施すること。 2) 医療事故調査制度に即した体制づくり等について、講演およびグループワークを行うこと。 3) 専従および専任・兼任等役割別で、事前に6つの課題から希望を確認し課題に沿ったグループ編成のグループワークとすること。 4) 今後の活動の参考となる情報交換や他職種とのネットワークづくりに資すること。
<p>今後の課題</p>	<p>チーム医療を推進するための多職種との連携を遂行するためには医師を含む多職種の積極的関わりが必要と考え、行政を含む関係機関への働きかけを検討する。 医療安全に関する意識の向上及び県内のネットワーク構築の必要性について、医療安全担当者交流会の企画・運営を実施し展開する。</p>

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成27年 5月14日	1. 平成27年度 医療安全委員会年間 事業計画について 2. その他・医療安全大会について	1. 平成27年度医療安全委員会年間事業計画につ いて (1)本委員会諮問事項の以下について委員と共有 認識を確認した。 安全な看護を提供するためにチーム医療を推 進する戦略 ・チーム医療推進のための行政 ・関係機関等の連携・組織で取り組む安全文化 の醸成 (2)委員会開催日を5月14日・7月9日・9月3日・ 10月8日・12月3日・2月4日の木曜日とし年6 回を決定した。 (3)諮問事項に対し答申するための意見交換を実 施した。 ・臨床工学技士による医療機器の安全な取扱い の研修会の計画 ・チーム医療に市民の参加を検討 ・今年10月1日に施行される医療事故調査制度 の情報の収集 等 2. 療安全大会について (1)11月8日(日)幕張メッセ国際会議場で開催 (2)今年度最も関心の高い医療事故調査制度につ いて講演を企画する。 (3)医療事故調査制度の準備・運営について報告 形式で企画をする。 (4)医療安全の取り組みについてリラックスしな がらレクチャーできる企画を設ける。 (5)企業展示の企業選定方法や標語等のスケジュー ルについて検討した。 (6)決定に至らない事項について次回委員会まで 課題とした。
第2回	平成27年 7月9日	1. 平成27年度 医療安全委員会年間 事業計画について 2. 医療安全大会企画・運営について	1. 医療安全委員会年間事業計画について (1)臨床工学技士による医療機器の安全な取扱い の研修会の計画については「輸液ポンプ・シ リンジポンプの安全講習」と題し医療安全担 当者交流会で実施する。また、薬剤師からの 講義を加え多職種協働で実施する。 (2)医療事故調査制度に関して現段階での情報不 足から今後も本委員会にて情報交換を実施する。 2. 医療安全大会企画・運営について (1)大会テーマについて「多職種連携で前進する 医療安全～医療事故調査制度の法制化で求め られているもの～」と共有した。 (2)大会サブテーマである医療事故調査制度に関 連した講演を制度と運営の2つのポイントに 絞り講師の選出を検討した。また演題として 医療の根幹はコミュニケーションにありと称 した企画を設けた。 (3)企業展示や会場設営について再度検討した。

回数	開催月日	議題	内容
第3回	平成27年 9月3日	1. 医療安全大会企画・運営について 2. 医療安全担当者交流会企画について 3. 医療安全に関する標語 第2次選定 4. その他	1. 医療安全大会企画・運営について (1)医療安全大会進捗状況についての報告を共有した。 (2)企業展示について再募集となった。 (3)講演講師1名・報告講師1名・講演1組の決定及び委員の担当役割・詳細なスケジュールについて確認する。 2. 医療安全担当者交流会企画について 医療安全担当者交流会の企画についてディスカッションを実施した。 3. 医療安全に関する標語 第2次選定 (1)各施設から864作品の募集があった。(多職種からの応募も含む) 選定基準に従って99作品が選定され第1次選定の結果11作品が第2次選定の対象となる。 (2)本会委員で第2次選定を実施した。 4. 療事故調査制度に関する情報交換 医療安全事故調査制度をテーマとした県内で開催された説明会での内容が事務局より報告された。報告を受けディスカッションを実施した。
第4回	平成27年 10月8日	1. 医療安全大会企画・運営について 2. 医療安全担当者交流会企画について 3. その他	1. 医療安全大会の企画・運営について (1)進捗状況の確認 ・当日のタイムスケジュールや会場設営、担当について最終確認を実施した。 ・企業展示は18社より20ブースの申し込みを確認する。 ・大会参加者は本日までで230名 ・標語は最終選定で優秀賞の紹介があった。 (2)その他当日までの最終確認・情報の共有を実施した。 2. 医療安全担当者交流会企画について (1)薬剤師による講演についてはテーマを「病棟と周術期におけるチーム医療」と決定した。 (2)臨床工学技士による講演は2名が決定する。また、実技については20グループに対応できるように企画中との報告があった。 (3)グループワークは参加者の問題解決ができるように事前に自施設の課題をもって参加する方法を検討した。 3. 医療事故調査制度に関する情報交換 事務局より医療事故調査制度に関する説明会に参加した内容について報告があった。また、各委員から医療事故調査制度施行後の各施設での実情が報告され情報を共有した。
第5回	平成27年 12月3日	1. 医療安全大会結果および評価について 2. 医療安全担当者交流会企画について 3. 平成27年度委員会事業実績中間報告 4. その他	1. 医療安全大会結果および評価について 全体を通じて盛況に終了した。今後の医療安全大会の方向性をディスカッションした。 2. 医療安全担当者交流会企画について企画案について再確認した。 3. 平成27年度委員会事業実績中間報告について実績についてディスカッションし、中間報告をまとめた。 4. その他多職種の連携を高める方法として、医師への働きかけについてディスカッションした。

回数	開催月日	議 題	内 容
第6回	平成28年 2月4日	<p>1. 医療安全交流会の結果及評価について</p> <p>2. 平成27年度委員会事業実績報告のまとめについて</p> <p>3. その他</p>	<p>1. 医療安全交流会の結果及評価について 参加者人数80名・職務は専従16名専任13名兼任45名その他6名等の参加者状況について報告があった。今年度は多職種連携をより臨床の現場で高まることを目的に、薬剤師による「多職種で取り組む Medikation エラーの防止」実技演習として臨床工学技士による「基礎的な輸注ポンプ・シリンジポンプに関する院内教育の取り組み」を実施し満足度の高い評価となった。また、今年度医療事故調査制度の実施に伴い看護職がどのように関わるかをテーマとした講演を企画しタイムリーな内容で興味深いとの声が寄せられた。グループワークはグループ構成を同職務にするなど、限られた時間で有意義な意見交換からアクションプランが発表された。今後、医療安全担当者の交流を深め更に深め多職種との連携に繋げる事から地区単位での交流を企画進める事で意見が一致した。委員としても関わりを持ち実施することを共有した。</p> <p>2. 平成27年度委員会事業実績報告のまとめについて 各委員との意見交換から、医療事故調査に関する県内の実績を共有し更なる周知をめざし次年度も継続するテーマとして取り上げる意見が上がった。医療安全交流会については、今年度はじめて多職種と協働した企画が実現し連携の重要性を周知され有効であった。今度この多職種連携をより身近なものとして実践できるよう地区部会で実現できるよう意見が統一された。</p> <p>3. その他一年間を振り返り委員会を通じ各職種間で意見交換や課題の共有や解決に向けてのディスカッションが展開でき次年度の展望が明らかになった。</p>

広 報 委 員 会

委員長 佐藤 絹代

I 活動のまとめ

<p>諮 問 事 項</p>	<p>諮問事項「県民に対する広報戦略」 ・看護、健康に関する広報 ・協会事業に関する広報</p>
<p>現状と課題</p>	<p>・県民が協会事業に興味をもてる広報について ・視覚的に広報する戦略について ・若年層に向けた広報戦略について</p>
<p>検 討 内 容</p>	<p>〔検討内容・過程〕 〔委員会開催状況：6回開催〕 1. 県民に向けた広報戦略 ・看護職届出制度の広報戦略として制度の活用メリット、ナースセンター活用の説明を強調する広報 2. 協会事業に関する広報 ・若年層に向けた広報戦略として「看護ちば」の活用 ・協会員に向けた広報戦略として、協会員が求めるニーズ把握、各常任委員会活動の報告等の工夫について</p>
<p>検 討 結 果</p>	<p>1. 看護師届出制度の広報戦略 ・届出物語の工夫（絵を増やし説明短く、同用紙にメールアドレス等の活用等）→ナースセンターの説明（こんな就職情報を提供できます）、利用することのメリットを具体的に追加、若年層・壮年層・老年層それぞれにスポットを当てたポスター作成し、潜在看護職が利用可能性のある施設（保育所・病院・デパート等）に広報する。 2. 若年層に向けた広報戦略 ・「看護ちば」の掲載内容に、新卒者・プリセプターの特集、各病院の新人教育内容等、必ず若年層に向けた特集を設ける。 ・各常任委員会で具体的にどのような活動をしているかの報告記事を掲載し、協会活動の周知を図る。 ・美容やグルメコラム等の特集を掲載し「看護ちば」を見たくなる内容を掲載する。 3. 協会員に向けた広報戦略 ・「看護ちば」の内容をよりニーズに沿った内容を提供し、見る人が増えるよう、美容などのコラム特集に加え、要望や意見を募集する等検討する。 ・各病院の特集を1つではなく、複数掲載していく。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>・県民に対する具体的な広報戦略を検討していく。 ・メディアの活用を含めた広報戦略の検討で、SMS、Facebookなどのメディアを活用した広報戦略を行い、看護協会や看護師届出制度、ナースセンター事業等を幅広く広報することを考える。 ・「看護ちば」等内容の充実のため、会員等からのニーズ把握を検討する。</p>

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成27年 7月17日	・前年度の課題の確認 ・年間事業計画	・県民に対する広報戦略 ・若年層に向けた具体的な広報戦略
第2回	平成27年 9月18日	・県民、協会員に向けた具体的な広報戦略 ・広報戦略のための冊子(情報ミニカード、医療安全冊子)	・情報ミニカードの検討 ・県民、協会員に向けた映像などの媒体の検討 ・まちの保健室を活用した広報
第3回	平成27年 10月16日	・協会員に向けた具体的な広報戦略 ・潜在看護師への広報戦略	・映像を用いた看護協会の説明内容 ・看護師届出制度を基にした具体的な広報戦略 ・SNSを用いた広報戦略
第4回	平成27年 11月13日	・中間まとめ	・映像などの媒体を活用した具体的な広報戦略 (SNSなどのメディアを活用した広報戦略)
第5回	平成28年 1月22日	・看護師届出制度の広報戦略 ・若年層に向けた広報戦略 ・協会員に向けた広報戦略	・看護師届出制度を看護学生へも広報していく ・看護ちばに若年層へ向けた特集を掲載していく ・看護ちばの掲載内容の工夫
第6回	平成28年 3月25日	・年間まとめ	・若年層に向けた具体的な広報戦略 ・看護師届出制度の広報戦略 ・看護ちばの掲載内容を活用した広報戦略

会員増促進委員会

委員長 石井 久美子

I 活動のまとめ

<p>諮問事項</p>	<p>会員を増やすための戦略 ・会員増の具体的方策 ・会員増を考慮した協会事業の進め方</p>
<p>現状と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設等会員代表者会におけるアプローチ方法の検討 2 看護教育機関へのアプローチ（継続） 3 精神領域へのアプローチ（継続） 4 他の委員会との連携（継続） 5 入会率の低い保健師職能への入会アプローチ（継続） 6 准看護師への入会の働きかけの検討 7 会員になる可能性のある子ども世代（中学生・高校生）へのアプローチ
<p>検討内容</p>	<p>〔検討内容・過程〕 〔委員会開催状況：6回開催（別紙に詳細を記載）〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 施設等会員代表者会におけるアプローチ方法の検討 2 看護教育機関へのアプローチ（継続） 3 精神領域へのアプローチ（継続） 4 他の委員会との連携（継続） 5 入会率の低い保健師職能への入会アプローチ（継続） 6 准看護師への入会の働きかけの検討 7 会員になる可能性のある子ども世代（中学生・高校生）へのアプローチ
<p>検討結果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1-①昨年度から入会案内がホームページ上からダウンロードできるようになっていることのご案内とクラブオフ冊子の配布を実施した。 2-①看護学生研究発表会(11/20)へのブース参加の検討 3-①非会員施設へ地区部会主催の研修案内を配布することとなり、当日会場で対象者に入会案内を配布。 4,6-①地区部会長会で非会員施設への研修案内及び非会員への入会案内配布の協力依頼をした。 5-①保健師職能委員会と連携し、交流会や日本看護協会の研修案内を各地域市町村保健所を通じて継続的に配布。 7-①ナースセンター事業のパンフレットを施設単位で使えるようにした。
<p>今後の課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設等会員代表者会におけるアプローチ方法の検討 2 看護教育機関へのアプローチ（継続） 3 精神領域へのアプローチ（継続） 4 他の委員会との連携（継続） 5 入会率の低い職能への入会アプローチ（保健師・領域Ⅱ・准看護師・看護教員） 6 会員になる可能性のある子ども世代（中学生・高校生）へのアプローチ

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成27年 5月28日	1 平成27年度年間計画の検討 2 前年度からの継続課題についての検討	前年度までの委員会活動についての説明と今年度の活動方針・内容についての検討
第2回	平成27年 7月30日	1 施設等会員代表者会でのPR報告 2 地区部会長会でのPR報告 3 福利厚生についてのPR検討	クラブオフのPR、地区部会への会員増に関するPR、地区部会研修で非会員施設への参加案内の配布を提案。
第3回	平成27年 9月17日	1 看護学生研究発表会でのブース企画の検討 2 関連団体との研修企画の進捗状況 3 平成27年度の中間報告	ブース出展に向けて活動することを決定。地区部会研修で非会員施設670施設へ発送決定。中間報告の原案作成。会員になる可能性のある子ども世代へのアプローチの検討。
第4回	平成27年 11月26日	1 看護学生研究発表会でのブース企画の結果 2 関連団体との研修企画の進捗状況 3 平成27年度の中間報告のまとめ	ブース参加の結果報告、633名に入会案内配布、6名にブースでの説明。9地区部会で非会員施設に研修案内を発送。中間報告のまとめ作成。新規入会者数が頭打ちになり、新たな方策の検討。保健所への看護協会PRチラシの設置、クリニックに就業する看護師への入会促進として、看護職賠償保険制度の案内送付。医療機関の職場体験参加者にナースセンター資料の配布提案。
第5回	平成28年 1月28日	1 次年度のブース企画の検討 2 子ども世代（中学生・高校生）へのアプローチの検討 3 中途退会者へのアプローチの検討	次年度も継続してブースへ出展したい。各施設でふれあい看護体験以外の職場体験でナースセンターのパンフレットを活用する。中途退会者の現状と問題の抽出。
第6回	平成28年 2月25日	1 入会状況の確認 2 平成27年度のまとめと次年度への課題	27年度の入会状況最終報告。様式4の作成及び委員会開催状況の作成。

推 薦 委 員 会

委員長 佐瀬 けい子

I 活動のまとめ

諮問事項	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に改選する役員、職能委員、推薦委員の候補者の推薦に関する事 平成29年度公益社団法人日本看護協会通常総会代議員・予備代議員候補者の推薦に関する事
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> 平成28年度に改選する役員14名（会長1名、副会長1名、常任理事2名、助産師職能理事1名、看護師職能理事〈領域Ⅰ〉1名、理事7名、監事1名）職能委員11名（保健師3名、助産師2名、看護師〈領域Ⅰ〉3名、看護師〈領域Ⅱ〉3名）、推薦委員7名について推薦する。 平成29年度公益社団法人日本看護協会代議員候補者について、平成27年12月31日現在の会員数で前年度同様の27名と算出され平成28年3月に候補者推薦する。
検討内容	<p>〔委員会開催状況〕 計5回 開催</p> <p>〔検討内容・過程〕</p> <p>諮問事項について年間計画を立案し、役割分担を進めた。役割分担の進捗状況をメールで報告し合い、各委員の積極的な活動ができた。</p>
検討結果	<p>平成28年度の推薦は、役員14名、職能委員11名、推薦委員7名であり、すべての推薦を挙げる事ができた。しかし、最終段階となり現任理事のうち1名から辞任の申し出があったため、後任理事の追加推薦が急遽、必要となり調整に苦慮した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成28年度に改選する役員14名（会長1名、副会長1名、常任理事2名、助産師職能理事1名、看護師職能理事〈領域Ⅰ〉1名、理事7名、監事1名）職能委員11名（保健師3名、助産師2名、看護師〈領域Ⅰ〉3名、看護師〈領域Ⅱ〉3名）、推薦委員7名について推薦した。 平成29年度公益社団法人日本看護協会代議員候補者について、平成27年12月31日現在の会員数で前年度同様の27名と算出された。地区部会の協力を得て、合計54名の代議員・予備代議員候補者の推薦を行った。
今後の課題	<p>会員数が少ない職能や地域からの推薦者の選出に例年苦慮し、今年度は同領域からの推薦委員を選出し臨んだが、それでも選出困難な現状があった。看護協会のバックアップは必須であるが、それ以上に各施設、各会員の協会活動への理解を浸透させる活動も必要である。</p>

II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	平成27年 8月19日	<ol style="list-style-type: none"> 推薦委員会の役割について 委員長・副委員長・書記の選出 諮問事項について 年間活動の作成について 	<ol style="list-style-type: none"> 諮問事項、委員会規程の確認 委員長・副委員長・書記の決定 年間活動計画の立案 活動の方向性と役割分担
第2回	10月23日	<ol style="list-style-type: none"> 現任役員の再任の意向について 候補者推薦にあたり今後の方針・方策について 平成29年度日本看護協会代議員の選出について 	<ol style="list-style-type: none"> 現任役員の意向状況確認 役員・職能委員候補者の人選と役割分担 日本看護協会代議員の選出方法について確認
第3回	12月18日	<ol style="list-style-type: none"> 役員・職能委員の選出状況について 今後の候補者推薦にあたっての調整等について 推薦委員候補者の推薦について 	<ol style="list-style-type: none"> 役員・職能委員の選出状況 未選出の候補者推薦にあたっての人選と検討 推薦委員候補者の人選と役割分担
第4回	平成28年 2月19日	<ol style="list-style-type: none"> 役員・職能委員・推薦委員候補者の最終確認について 追加選出候補者の推薦について 活動報告書のまとめについて 	<ol style="list-style-type: none"> 役員・職能委員・推薦委員候補者の選出状況 今後の候補者推薦にあたっての人選と検討 活動報告、今後の課題についての検討
第5回	3月18日	<ol style="list-style-type: none"> 役員・推薦委員候補の選出について 年度まとめについて 	<ol style="list-style-type: none"> 役員、職能委員、推薦委員の候補者の最終決定 活動報告書作成

特別委員会報告

ナースセンター運営委員会

委員長 星野 恵美子

本委員会は、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」第15条の規定に基づいたナースセンター事業について協議することを目的として設置している。本年度は12名の委員で年1回開催した。

議事は前年度の事業実績と本年度の事業計画について、また10月から運用開始された「離職看護師等の届出制度」の施行状況について報告した。具体的には届出制度の開始にあたって「離職看護師等の届出制度推進検討会」を設置し、円滑な推進と有効な活用を図るために普及啓発の方法、情報提供のあり方、就業相談推進アドバイザーによるフォロー体制などについて検討を進めたことを報告した。

また、就業相談については、ハローワーク巡回相談、看護基礎技術講習会、合同就職説明会および再就業支援交流会、新たに開始された届出制度の登録者へのかかわりに、就業相談推進アドバイザーによる具体的な助言の効果を期待する意見があった。

将来の看護師不足に対しては、看護学生数の確保、実習の場・実習指導者の確保体制や支援策が重要であるとの意見が交わされた。

認定看護管理制度教育課程運営委員会

委員長 石渡 祥子

本委員会は、千葉県看護協会認定看護管理者教育課程運営規程（以下運営規程）に基づき、教育課程の目的を達成するために企画・運営及受講者選考決定・修了審査に関する審議機関として設置されている。

平成27年度の委員構成は、教育関係者4名、病院看護管理者2名、千葉県関係者1名、協会関係者2名の合計9名である。委員会開催は4回で、審議・報告事項は以下のとおりである。

【第1回 平成27年7月6日】

- 1 平成27年度第15回認定看護管理者教育課程セカンドレベル（以下セカンドレベル）について（受講者選考・決定）
- 2 平成26年度第14回セカンドレベル看護管理実践報告会について
- 3 公益社団法人千葉県看護協会認定看護管理者教育課程細則について

【第2回 平成27年9月3日】

- 1 平成27年度第34回認定看護管理者教育課程ファーストレベル（以下ファーストレベル）について（修了審査）
- 2 平成27年度第15回セカンドレベルの進捗状況について
- 3 認定看護管理者教育機関認定更新審査について

【第3回 平成28年1月15日】

- 1 平成27年度第15回セカンドレベルについて（修了審査）
- 2 平成28年度教育課程の計画について
- 3 認定看護管理者教育機関認定更新審査結果について（口頭指摘事項）

【第4回 平成28年4月11日】

- 1 平成28年度第35回ファーストレベルについて（受講者選考・決定）
- 2 平成28年度ファーストレベル・セカンドレベルのカリキュラムについて
- 3 公益社団法人千葉県看護協会認定看護管理者教育課程運営規程、運営細則、運営委員会細則について

【27年度実績】

- 1 第34回ファーストレベル開催（6/12～7/24）
修了者94名、教科目履修者1名
- 2 第15回セカンドレベル開催（9/4～11/27）
修了者34名（受講者全数）
- 3 第14回セカンドレベル修了者の看護管理実践報告会開催（H27.10.26）
修了生30名中25名が発表
- 4 日本看護協会より「認定看護管理者教育機関認定証」を交付された。
認定登録番号29号
認定有効期限 平成35年3月31日有効

メ 毛

平成28年度 千葉県看護協会会長表彰

氏 名	施 設 名	氏 名	施 設 名
吉 田 智 子	千葉大学医学部附属病院	小 林 美代子	国保松戸市立病院
岡 本 百合子	千葉大学医学部附属病院	高 野 竹 子	国保松戸市立病院
井 上 智香子	千葉大学医学部附属病院	根 本 仁 美	国保松戸市立病院
元 吉 美津江	千葉大学医学部附属病院	千 葉 まり子	国保松戸市立病院
鳥 越 美 洋	千葉大学医学部附属病院	篠 原 里 恵	国保松戸市立病院
萩 原 眞由美	千葉大学医学部附属病院	関 根 里 美	国保松戸市立病院
佐 藤 千 晶	千葉大学医学部附属病院	東 出 伸 子	国保松戸市立病院
中 山 奈保美	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	横 田 早 苗	国保松戸市立病院
河 崎 育 子	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	中 村 明 美	国保松戸市立病院
小 林 亜紀子	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	佐 野 恵美子	国保松戸市立病院
中 村 智 美	千葉市立青葉病院	城 島 真 弓	国保松戸市立病院
小 芝 啓 子	千葉市立青葉病院	吉 田 和 美	国保松戸市立病院
狩 野 桂 子	千葉市立青葉病院	浦 井 美奈子	国保松戸市立病院
徳 島 優 子	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院	後 藤 尚 子	国保松戸市立病院
伊 藤 幸 子	公益社団法人 千葉県看護協会	宇佐美 ヤ エ	松戸市立病院附属看護専門学校
上 野 典 子	独立行政法人国立病院機構 千葉東病院	安 部 芳	キッコーマン総合病院
佐 藤 茂 美	独立行政法人 地域医療機能推進機構 千葉病院	奥 畑 智 子	成田赤十字病院
大 塚 敏 江	独立行政法人 地域医療機能推進機構 千葉病院	柴 田 恒 子	成田赤十字病院
梅 澤 明 美	千葉中央看護専門学校	桜 井 千代子	成田赤十字病院
菊 地 由 江	千葉県千葉リハビリテーションセンター	平 中 さつき	成田赤十字病院
矢ノ倉 知 雄	千葉県千葉リハビリテーションセンター	阿 部 弘 美	成田赤十字病院
鈴 木 亜由美	千葉県千葉リハビリテーションセンター	小 川 綾 子	成田赤十字病院
森 雅 美	千葉県千葉リハビリテーションセンター	宮 田 幸 子	成田赤十字病院
増 田 尚 子	千葉県立鶴舞看護専門学校	吉 田 敦 子	成田赤十字病院
安 藤 幸 恵	市原市保健センター	関 本 理 香	千葉県立佐原病院
椎 田 好 恵	市原健康福祉センター	海老澤 富美子	千葉県立佐原病院
堺 由紀子	社会福祉法人恩賜財団済生会 千葉県済生会習志野病院	塙 よね子	千葉県立佐原病院
加 藤 由美子	公益財団法人復光会 総武病院	石 原 夕 子	千葉県立佐原病院
三 上 千 尋	社会医療法人社団 千葉県勤労者医療協会 南浜診療所	井 出 壽 子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院
野 口 和 彦	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院	塚 本 晃 子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院
加世田 真弓美	東京歯科大学市川総合病院	高 木 知 美	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院
西 村 宣 子	東京歯科大学市川総合病院	小 沼 方 子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院
坪 千香子	国保松戸市立病院	柴 崎 智代子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

氏 名	施 設 名	氏 名	施 設 名
山 崎 ゆかり	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	櫻 井 美 春	社会福祉法人太陽会 安房地域医療センター
向 後 直 美	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	松 本 初 美	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
根 本 雅 代	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	石 渡 美 香	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
高 橋 久美子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	押 本 徳 悦	医療法人光洋会 三芳病院
安 田 洋 子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	三 浦 由美子	船橋市立医療センター
薄 田 美智代	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	三 上 由 紀	船橋市立医療センター
山 田 利 幸	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	江里口 敦 子	船橋市立医療センター
栗飯原 ゆかり	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	石 崎 裕 子	船橋市立医療センター
小 林 千 恵	国保匝瑳市民病院	宮 嶋 明 子	船橋市立医療センター
向 後 京 美	国保多古中央病院	湯 田 泰 子	船橋市立医療センター
豊 田 栄 子	国保小見川総合病院	坂 庭 雅 代	船橋市立医療センター
宮 原 照 江	東庄町国民健康保険 東庄病院	山津田 太 子	医療法人明星会 東条メンタルホスピタル
石 橋 紀 子	地方独立行政法人 さんむ医療センター	菅 井 優 子	千葉市立海浜病院
堀 川 美智代	地方独立行政法人 さんむ医療センター	陶 山 由 佳	千葉市立海浜病院
関 川 文 代	地方独立行政法人 さんむ医療センター	高 本 京 子	千葉市立海浜病院
伊 藤 明 美	地方独立行政法人 さんむ医療センター	竹 田 貴 子	千葉市立海浜病院
秋 庭 由 紀	地方独立行政法人 さんむ医療センター	高 島 美智子	千葉市立海浜病院
鈴 木 富 子	地方独立行政法人 さんむ医療センター	佐々木 みゆき	千葉市立海浜病院
岩 瀬 祐美子	公立長生病院	長 尾 眞由美	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
江 澤 雅 子	いすみ医療センター	生 稻 美 穂	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
鈴 木 み き	国保直営総合病院 君津中央病院	山 下 美弥子	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
鈴 木 かおる	国保直営総合病院 君津中央病院	野 田 百合子	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
桑 原 順 子	国保直営総合病院 君津中央病院	古 原 絹 子	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
近 藤 ひとみ	国保直営総合病院 君津中央病院	二 見 恵 美	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
鴫 田 悦 美	国保直営総合病院 君津中央病院	小 松 裕 子	医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院
由 井 和 美	国保直営総合病院 君津中央病院	藤 根 佳 子	医療法人芙蓉会 五井病院
森 田 麻理子	国保直営総合病院 君津中央病院	三 浦 且 子	医療法人三矢会 八街総合病院
竹 尾 玲 子	国保直営総合病院 君津中央病院	中 村 美代子	医療法人社団柏水会 初石病院
畑 中 優 子	国保直営総合病院 君津中央病院	宮 城 美矢子	医療法人社団圭春会 小張総合病院
芝 山 真知子	国保直営総合病院 君津中央病院	山 田 俊 恵	医療法人社団圭春会 小張総合病院
栗 原 京 子	国保直営総合病院 君津中央病院	海老原 絹 子	医療法人社団誠馨会 新東京病院
林 明 己	君津健康福祉センター	加賀美 美紀恵	医療法人社団誠馨会 新東京病院
川 名 弘 子	社会医療法人社団木下会 館山病院	山 口 リン子	帝京大学ちば総合医療センター

氏名	施設名	氏名	施設名
井上千鶴	帝京大学ちば総合医療センター	富樫睦子	とうがね訪問看護ステーション
須原直子	東京慈恵会医科大学附属柏病院	三宅淳子	前田記念腎研究所 茂原クリニック
川向和子	医療法人沖繩徳洲会 千葉徳洲会病院	竹俣幸江	医療法人社団愛友会 介護老人保健施設 ケアセンター習志野
湯徳和子	医療法人社団有相会 最成病院	戸村千枝子	東金九十九里地域医療センター 東千葉メディカルセンター
大上道子	医療法人社団有相会 最成病院	末高美代子	東金九十九里地域医療センター 東千葉メディカルセンター
武田由紀江	医療法人社団一心会 初富保健病院	中村貴子	東金九十九里地域医療センター 東千葉メディカルセンター
清水博和	千葉県こども病院	佐藤弘子	さぎぬま訪問看護ステーション
上田由美子	千葉県こども病院	田島夕子	セントケア訪問看護ステーション市川
小暮貴代	千葉県こども病院	長谷川みさ子	千葉市青葉看護専門学校
塩崎尚子	千葉県こども病院	中村壽子	医療法人社団錦昌会 みどりのほ 葉記念病院
笠井彩	千葉県こども病院	森陽子	医療法人社団遊山会 耳鼻咽喉科サージセンターちば
平松悦子	医療法人社団創進会 みつわ台総合病院	長嶋美佳	医療法人社団保健会 東京湾岸リハビリテーション病院
酒井律子	医療法人社団創進会 みつわ台総合病院	島田七重	一般社団法人巨樹の会 松戸リハビリテーション病院
竹内敏子	特別養護老人ホーム佐倉白翠園	許斐玲子	社会福祉法人双樹会 地域密着型 特別養護老人ホーム リバーサイド
牛島由美子	介護老人保健施設 つくも苑	菅谷しづ子	千葉科学大学 看護学部
栞子嘉美	順天堂大学医療看護学部	工藤愛	医療法人社団鼎会 三和病院
小元まき子	順天堂大学医療看護学部	櫻庭けい子	個人会員用施設
川名千秋	東邦大学医療センター佐倉病院	篠原千秋	個人会員用施設
藤原明美	東邦大学医療センター佐倉病院	川部正美	個人会員用施設
村山直美	東邦大学医療センター佐倉病院	小嶋葉子	個人会員用施設
京谷みよ子	東邦大学医療センター佐倉病院	八田佳子	個人会員用施設
門田昌子	東邦大学医療センター佐倉病院	土田祥子	個人会員用施設
長内英理子	医療法人社団庄和会 神崎クリニック	阿部一江	個人会員用施設
豊田明美	千葉県病院局経営管理課	栗原佳子	個人会員用施設
黒坂真由美	医療法人社団一条会 一条会病院	近藤貴江	個人会員用施設
佐々木圭子	日本医科大学千葉北総病院	磯部和代	個人会員用施設
板垣伸子	医療法人社団曙会 流山中央病院	小林美智子	個人会員用施設
西原晴美	千葉県循環器病センター	竹末孝子	個人会員用施設
前田宏美	千葉県循環器病センター	田村佳士枝	個人会員用施設
長島恭子	千葉県循環器病センター	宮本慶子	個人会員用施設
齊藤輝美	千葉県健康福祉部 医療整備課 看護師確保推進室		
松本歩	独立行政法人地域医療機能推進機構 千葉病院附属介護老人保健施設		
西山由紀子	独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院附属看護専門学校		
			計195名

第34回千葉県看護研究学会 優秀演題会長表彰者

最優秀賞	佐藤恵美子	一般社団法人 巨樹の会 八千代リハビリテーション病院	「人員増員による転倒防止の効果の検証」
優 秀 賞	中嶋 秀明	千葉大学医学部附属病院	「7対1病棟における看護量について」

(以上、敬称略)

看護職員の表彰

1. 叙勲その他の国の表彰

平成28年度 春の叙勲

瑞宝単光章	許斐 玲子	元東京歯科大 千葉病院 総看護師長
瑞宝単光章	佐藤るみ子	元国立病院機構 小諸高原病院 総看護師長
瑞宝単光章	須賀井雅子	白金整形外科病院 看護部長
瑞宝単光章	鈴木由美子	元国立療養所栗生楽泉園 看護部長
瑞宝単光章	栗原サキ子	元稲城市立病院 看護部長

厚生労働大臣表彰

平成27年度公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰

寺島 正子 公益社団法人 千葉県看護協会

2. 平成28年度千葉県看護功労者知事表彰

河野 鈴子	千葉大学医学部附属病院
鈴木 節子	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター
石渕 夏子	医療法人社団紺整会 船橋整形外科病院
善浪 正子	個人会員用施設
宮本 祐子	国保松戸市立病院
田尻 雅子	松戸市立福祉医療センター 介護老人保健施設梨香苑
寺口 恵子	元東邦大学医療センター佐倉病院
多田 節子	医療法人社団寿光会 栗源病院
菅谷 秋子	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院
青木 和代	九十九里ホーム病院
越川 則子	国保匝瑳市民病院
渡辺 郁子	医療法人社団徳風会 高根病院
山口 幸恵	いすみ市役所 福祉課
石井 幸子	いすみ医療センター
原 洋子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院

3. 平成28年度日本看護協会会長表彰

石渕 夏子	医療法人社団紺整会 船橋整形外科病院
小賀坂好子	帝京大学ちば総合医療センター
澤田いつ子	公益社団法人 千葉県看護協会
寺口 恵子	元東邦大学医療センター佐倉病院
増渕美恵子	日本医科大学千葉北総病院

(以上、敬称略。現会員のみを記載。)

平成27年度 事業の実施状況

I 教育・研修等による看護の質の向上に関する事業

看護職員の資質向上に関する事項

1. 生涯教育

(1)生涯教育の実施状況(平成27年度生涯教育研修参加状況表参照)

今年度、当初計画した研修は50コースであったが、新規研修として1コースを追加、し合計で51コースとなった。新規追加研修は、日本看護協会より委託を受けた「助産実践能力強化支援事業」における院内助産のためのスキルアップ研修を実施。本研修は、クロックミップレベルⅢ認証制度に申請できる研修として位置づけた。

また、新たに千葉県委託事業の教員養成講習会、保健師助産師看護師実習指導者講習会(特定分野)を開催。協会研修では地域包括ケアシステムの中の看護活動、エンドオブライフケア、助産実践能力強化支事業(院内助産推進のためのスキルアップ研修)等の研修を開催した。

研修回数82回、研修総日数454日、受講者実数 7,549名であった。

教育計画のカテゴリー別実施状況の内訳は 以下のとおりである。

- | | | | | |
|--|-------|-----|------|--------|
| ①資格認定教育 | 8コース | 11回 | 298日 | 638名 |
| ・認定看護管理者制度教育課程 (内訳) | | | | |
| ファーストレベル教育課程 | 1コース | 1回 | 28日 | 95名 |
| セカンドレベル教育課程 | 1コース | 1回 | 38日 | 34名 |
| ・医療安全管理者養成研修 | 1コース | 1回 | 7日 | 120名 |
| ・心肺蘇生法トレーニングコース (BLS) | 1コース | 4回 | 4日 | 239名 |
| ・教員養成講習会 | 1コース | 1回 | 164日 | 18名 |
| ・実習指導者講習会 | 1コース | 1回 | 44日 | 63名 |
| ・保健師助産師看護師実習指導者講習会(特定分野) | 1コース | 1回 | 7日 | 37名 |
| ・訪問看護師養成講習会 (再掲) | (1コース | 1回 | 3日 | 32名) |
| ②ステップアップ教育 | 21コース | 42回 | 112日 | 4,462名 |
| (内訳) | | | | |
| ・段階別研修(新人、2年目、中堅、管理者等) | 11コース | 30回 | 84日 | 3,215名 |
| ・領域別研修(感染、災害、がん、認知症等) | 10コース | 12回 | 28日 | 1,247名 |
| ③看護実践教育 | 22コース | 26回 | 41日 | 2,379名 |
| ・地域包括ケアシステムの中の看護活動 | 1コース | 1回 | 3日 | 114名 |
| ・エンドオブライフケア | 1コース | 2回 | 4日 | 118名 |
| ・助産実践能力強化支事業(院内助産推進のためのスキルアップ研修) | 1コース | 2日 | 24名 | |
| ④公開講座 | | | | |
| ・千葉県看護教員講習会 公開講座 | 3回 | 3日 | 70名 | |
| ⑤今年度の千葉県委託研修(再掲)は6研修8コース実施。新規および隔年で研修開催したものは以下の2研修である。 | | | | |

ア 保健師助産師看護師実習指導者講習会(特定分野)

イ 教員養成講習会

(2)まとめ

- ・定員に対する受講数は7,549名(94.5%)で、全体的には前年度同様、(26年度7,512名)であるが、社会情勢を踏まえた研修企画にて、資格修得取得研修(98.2%)、領域別ステップアップ研修(96.5%)は当該年度目標設定95%を上回った。
- ・看護実践教育研修は91%に留まったが、「地域包括ケアシステムの中の看護活動」「エンドオブライフケア」等の新規研修は応募も多く、特に「地域包括ケアシステムの中の看護活動」は2倍以上の応募があったため、会場を変更し定員を増やして開催した。
- ・受講に際して、定員を上回った研修は、各施設必ず1名は受講できるように配慮し同時に定員の増員、会場変更等の対応をした。
- 定員に満たない研修はホームページ等で広報を行い、再公募する等の対応を行った。
- 今後も医療体制の変化や看護情勢を把握して、ニーズの高い研修の選定・企画を検討して行く必要がある。

平成27年度 生涯教育研修 参加状況

研修No	研修名	実施日数	研修開催日				定員	応募者数	決定者数	受講者数	保健師		助産師		看護師		准看護師		その他	
			～	～	～	～					会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員		
1	医療安全管理者養成研修会【診療報酬加算対応】	7	9/9	～	9/17	10/30	120	127	121	120	-	-	2	-	117	1	-	-	-	
2	認定看護師管理者ファーストレベル教育課程—第34回—	28	6/12	～	7/28	9/18	80	96	95	95	-	-	3	-	92	-	-	-	-	
3	認定看護師管理者セカンドレベル教育課程—第15回—	38	9/4	～	11/27	2/5	30	34	34	34	-	-	2	-	32	-	-	-	-	
4	AHA（アメリカ心臓協会）心肺蘇生法トレーニング 一次救命処置（BLSコース）	A	1	5/23			60	79	60	60	-	-	-	-	54	3	2	1	-	
		B	1	5/24			60	82	60	60	-	1	1	-	55	1	2	-	-	
		C	1	10/17			60	97	60	60	-	-	-	-	57	2	-	1	-	
		D	1	10/18			60	84	60	59	-	-	-	-	57	1	1	-	-	
		計	4				240	342	240	239	-	1	1	-	223	7	5	2	-	
5	実習指導者講習会	44	10/9	～	12/14		60	92	63	63	1	-	1	-	48	13	-	-	-	
6	千葉県看護教員養成講習会	167	4/21	～	1/29		40	18	18	18	-	1	1	-	12	4	-	-	-	
7	保健師助産師看護師実習指導者講習会（特定分野）	7	1/6	～	2/4		40	37	37	37	-	-	1	1	18	17	-	-	-	
8	訪問看護師養成講習会「ステップ1」	3	7/1	～	2/16		40	32	32	32	-	-	-	-	31	-	1	-	-	
小計（資格修得）							650	778	640	638	1	2	11	1	573	42	6	2	-	
9	新人看護職員研修Aコース（実習あり）	A	15	4/30	～	11/2		15	13	13	13	-	-	-	-	8	1	4	-	-
	新人看護職員研修Bコース（実習なし）	B	9	4/30	～	11/2		20	26	26	25	-	-	-	-	10	9	4	2	-
	・情報管理・感染管理	C	1	4/30				15	14	14	14	-	-	-	-	6	1	5	2	-
	・摂食・嚥下障害のある患者の食事介助・死後の対応	D	1	5/1				15	14	14	14	-	-	-	-	5	2	4	3	-
	・フィジカルアセスメント	E	1	5/21				15	29	29	29	-	-	-	-	19	3	4	3	-
	・心電図・心肺蘇生法/BLS	F	1	5/22				15	20	19	19	-	-	-	-	11	3	5	-	-
	・スキンケア	G	1	6/10				15	20	20	19	-	-	-	-	10	2	4	3	-
	・与薬の技術と薬剤管理・医療安全	H	1	7/31				15	12	12	11	-	-	-	-	6	-	5	-	-
	・物品管理と経済効果・基本姿勢と態度	I	1	11/2				15	6	6	3	-	-	-	-	3	-	-	-	-
	新人看護職員研修	計	15					140	154	153	147	-	-	-	-	78	21	35	13	-
10	新人助産師研修Aコース（実習あり）	A	15	6/16	～	10/20		10	3	3	3	-	-	3	-	-	-	-	-	
	新人助産師研修Bコース（実習なし）	B	9	6/16	～	10/20		10	8	8	8	-	-	8	-	-	-	-	-	
	・産科補償制度・産科ガイドライン・助産ケアの実際	C	1	6/16				10	6	5	5	-	-	5	-	-	-	-	-	
	・ハイリスク・妊婦ケア	D	1	6/24				10	15	14	14	-	-	8	6	-	-	-	-	
	・新生児のフィジカルアセスメントとケア	E	1	6/25				10	14	13	13	-	-	7	6	-	-	-	-	
	・新生児蘇生法	F	1	6/26				10				-	-	-	-	-	-	-	-	
	・助産師のリスクマネジメント—産科救急・CTG判読—	G	1	7/16				10	13	12	12	-	-	8	4	-	-	-	-	
	・糖尿病妊産婦へのケア	H	1	7/30				10	7	6	6	-	-	6	-	-	-	-	-	
	・与薬の技術と薬剤管理・医療安全	I	1	7/31				10	3	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-	
	・母乳育児	J	1	10/5				10	13	12	11	-	-	7	4	-	-	-	-	
・家族への支援・リフレクション	K	1	10/20				10	3	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-		
新人助産師研修	計	15					110	85	77	76	-	-	56	20	-	-	-	-		
11	新人看護職員研修責任者・教育担当者研修会		5	9/3	9/4	9/5	10/1	10/2	60	61	60	60	-	-	2	-	48	10	-	-
12	実地指導者研修	A	3	8/21	8/24	8/25			120	95	92	92	-	2	1	-	79	10	-	-
		B	3	9/24	9/25	9/28			120	109	105	103	-	-	2	-	91	10	-	-
13	フレッシュセミナー（春・秋）	A	2	5/26	10/6				120	132	130	130	-	-	8	1	95	20	3	3
		B	2	5/27	10/7				120	126	125	124	1	-	3	-	95	20	3	2
		C	2	5/28	10/8				120	129	126	124	-	-	2	1	99	14	2	6
		D	2	5/29	10/9				120	136	133	133	-	-	3	-	106	21	3	-
		E	2	6/1	10/13				120	117	116	115	-	-	2	-	89	20	2	2
		F	2	6/2	10/14				120	113	113	113	-	1	1	-	94	15	-	2
		G	2	6/3	10/15				120	124	124	123	2	-	3	-	92	17	6	3
		H	2	6/4	10/19				120	119	119	118	2	-	1	-	92	17	4	2
		I	2	6/5	10/20				120	96	95	94	-	-	2	-	70	19	3	-
		J	2	6/8	10/21				120	86	86	86	2	-	2	-	68	13	1	-
K	2	6/9	10/22				80	64	62	61	-	-	1	-	46	12	2	-		
計	22						1280	1242	1229	1221	7	1	28	2	946	188	29	20		
14	2年目ナースに求められるメンバーシップ A日程	A	1	5/11					120	136	130	129	-	-	5	-	119	-	4	1
		B	1	5/12					120	135	131	127	5	-	2	-	109	2	9	-
		C	1	5/13					120	136	132	131	4	-	1	-	120	2	4	-
		D	1	5/14					120	138	133	130	3	-	5	-	114	3	5	-
		E	1	5/15					120	133	130	129	-	-	2	-	125	1	1	-
		F	1	5/18					120	126	125	119	-	-	4	-	109	5	1	-
		G	1	5/19					120	122	120	119	1	-	3	-	109	1	5	-
		H	1	5/20					120	119	115	113	1	-	1	-	104	3	3	1
計	8						960	1045	1016	997	14	-	23	-	909	17	32	2		
15	人を育てる臨地実習	2	1/19	1/20				80	115	108	107	1	-	7	-	94	5	-	-	
16	主任研修 B日程	A	2	9/29	9/30				120	128	122	121	-	-	1	-	117	3	-	-
		B	2	12/10	12/11				120	102	98	96	1	-	2	-	92	1	-	-
17	【ネット】労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識—労働時間編—	1	8/3					80	57	54	53	-	-	1	-	51	-	1	-	
18	【ネット】一般病院における認知症ケアの質向上のための看護管理者の役割～急性期医療を受ける認知症高齢者に対応するために～	1	8/3					80	69	65	62	-	-	-	-	61	-	1	-	
19	看護管理者研修	5	8/3	8/4	8/17	8/19	8/20	60	82	80	80	-	-	2	-	78	-	-	-	
小計（段階）								3,330	3,344	3,259	3,215	23	3	125	22	2,644	265	98	35	

研修No	研修名	実施日数	研修開催日				定員	応募者数	決定者数	受講者数	保健師		助産師		看護師		准看護師		その他	
			7/29	7/30	8/5	8/6					会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員		
20	感染管理—基礎編—	A	2	7/29	7/30		150	160	152	152	2	1	3	-	137	-	9	-	-	
		B	2	8/5	8/6		150	124	120	119	3	1	2	-	104	1	8	-	-	
	21	感染管理—実践編—	A	3	8/26	8/27	8/28	100	99	92	90	-	-	-	-	84	-	6	-	-
			B	3	8/31	9/1	9/2	100	91	87	86	1	-	3	-	77	1	4	-	-
	22	【ネット】災害医療と看護（基礎編） 千葉会場	A	2	7/9	7/10		150	124	123	121	2	-	-	-	116	1	2	-	-
		【ネット】災害医療と看護（基礎編） 亀田会場	B	2	7/9	7/10		50	20	20	20	1	-	1	-	17	1	-	-	-
		【ネット】災害医療と看護（基礎編） 旭会場	C	2	7/9	7/10		30	17	17	16	-	-	-	-	12	-	4	-	-
		計	2				230	161	160	157	3	-	1	-	145	2	6	-	-	
	23	災害医療と看護（実践編）		2	3/3	3/4		70	69	64	62	-	-	2	-	60	-	-	-	-
	24	看護研究Ⅰ—初めて取り組む看護研究—		3	4/27	4/28	5/25	120	89	87	87	1	-	1	-	82	1	2	-	-
25	看護研究Ⅱ—研究論文を完成させる—		2	8/10	10/16		100	77	75	73	1	-	3	-	69	-	-	-	-	
26	がん看護		3	12/7	12/8	12/9	120	136	133	132	1	-	2	-	125	-	4	-	-	
27	認知症看護初心者研修		3	5/7	5/8	6/11	120	122	117	116	-	-	3	-	111	-	2	-	-	
28	認知症看護中堅者研修		2	12/15	12/16		70	110	106	105	2	-	-	-	98	3	2	-	-	
29	災害支援ナースフォローアップ研修		1	2/19			70	78	73	68	1	-	2	-	65	-	-	-	-	
	小計（領域）						1,400	1,316	1,266	1,247	15	2	22	-	1,157	8	43	-	-	
	中計（ステップアップ）						4,730	4,660	4,525	4,462	38	5	147	22	3,801	273	141	35	-	
30	助産師のリスクマネジメント—産科救急・CTG判読—		1	7/16			20	25	25	25	-	-	20	5	-	-	-	-	-	
	31	糖尿病妊産婦へのケア		1	7/30		20	11	11	11	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-
	32	母乳育児		1	10/5		30	15	14	14	1	-	5	-	8	-	-	-	-	
	33	【ネット】助産師実践能力習熟段階（クリニカルラダー）ステップアップ研修 助産師のキャリアパス・クリニカルラダーの基礎的理解—2013—		1	7/14		50	17	14	14	-	-	11	1	2	-	-	-	-	
	34	職場のメンタルヘルスとストレスマネジメント		1	1/25		100	112	103	102	2	-	2	-	98	-	-	-	-	
	35	うつ傾向にある患者への関わり方		1	12/14		100	132	126	123	2	1	4	-	105	3	8	-	-	
	36	高齢者に起こりやすい機能低下と生活を支える看護—感覚器の機能障害とその看護—		1	1/26		150	151	145	143	1	-	3	-	117	8	13	1	-	
	37	手術看護		1	11/7		120	114	102	98	-	-	-	-	88	1	9	-	-	
	38	急性期の看護—循環器系に強いナースを目指そう— A日程	A	2	1/21	1/22		150	158	153	153	2	-	-	-	149	1	1	-	-
		急性期の看護—循環器系に強いナースを目指そう— B日程	B	2	2/17	2/18		150	209	158	153	5	-	3	-	139	-	4	2	-
	39	エンド・オブ・ライフ・ケア（ELNEC-J）研修 A日程	A	2	1/12	1/13		60	112	59	59	-	-	-	-	59	-	-	-	-
		エンド・オブ・ライフ・ケア（ELNEC-J）研修 B日程	B	2	1/14	1/15		60	107	59	59	-	-	1	-	56	2	-	-	-
	40	摂食・嚥下障害を持つ患者の看護 A日程	A	2	10/27	10/28		120	101	95	94	2	-	-	-	86	1	5	-	-
		摂食・嚥下障害を持つ患者の看護 B日程	B	2	12/3	12/4		120	78	76	76	1	-	-	-	69	-	6	-	-
	41	看護師としての成長を支える自己の振り返り—リフレクション—看護実践の振り返りから自己課題を明らかにする—		1	2/12		120	103	98	89	-	-	-	-	81	3	5	-	-	
	42	医療安全基礎—やってみよう！危険予知トレーニングKYT— A日程	A	1	12/17		120	129	123	120	1	-	1	-	108	5	4	1	-	
		医療安全基礎—やってみよう！危険予知トレーニングKYT— B日程	B	1	12/18		120	117	112	106	2	-	1	-	86	6	10	1	-	
	43	糖尿病患者のセルフケア支援（基礎編）		1	10/29		150	140	138	138	3	-	3	-	123	3	6	-	-	
	44	糖尿病患者のセルフケア支援（実践編）		1	11/30		120	105	100	96	2	-	4	-	85	-	5	-	-	
	45	最新の褥瘡予防とケア A日程	A	2	12/1	12/2		150	172	159	156	1	-	-	-	147	-	7	1	-
		最新の褥瘡予防とケア B日程	B	2	2/9	2/10		150	151	130	120	-	-	1	-	107	4	7	1	-
	46	看護職の倫理的責任・法的責任		2	2/3	2/4		150	110	106	101	2	-	1	-	98	-	-	-	-
	47	看護補助者教育責任者研修		2	1/27	1/28		60	71	67	67	-	-	5	-	62	-	-	-	-
	48	地域包括ケアシステムの中の看護活動		3	7/3	7/17	7/24	80	192	116	114	3	-	1	-	108	2	-	-	-
	49	介護職員等対象の喀痰吸引指導者研修		2	7/27	7/28		60	75	67	67	-	-	-	-	49	18	-	-	-
	50	訪問看護におけるフィジカルアセスメント		1	11/14		40	67	57	57	1	-	1	-	50	5	-	-	-	
	53	助産実践能力強化支援事業—院内助産推進のためのスキルアップ研修—		2	11/21	12/20		40	29	27	24	-	-	21	1	2	-	-	-	-
		小計						2,610	2,803	2,440	2,379	31	1	99	7	2,082	62	90	7	-
	6	千葉県看護教員養成講習会 公開講座「看護教育方法論（概論）」	A	1	7/21			60	33	33	29	2	-	1	-	19	7	-	-	-
		千葉県看護教員養成講習会 公開講座「自分と他人を認め合うコミュニケーション」	B	1	11/17			50	30	30	24	1	-	1	1	19	2	-	-	-
千葉県看護教員養成講習会 公開講座「専門学校における看護教育の新たな可能性」		C	1	1/28			60	22	22	17	1	-	1	1	12	3	-	-	-	
	小計						170	85	85	70	4	-	2	2	50	12	-	-	-	
	合計						8,160	8,326	7,690	7,549	74	8	259	32	6,506	389	237	44	-	

第34回千葉県看護研究学会

研修No	研修名	実施日数	研修開催日	定員	応募者数	決定者数	受講者数	保健師		助産師		看護師		准看護師		その他	
								会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員	会員	非会員		
52	千葉県看護研究学会（一般）	A	1	2/26	500	441	429	399	4	-	13	1	361	12	8	-	-
	千葉県看護研究学会（看護学生）	B	1	2/26		35	35	33	-	-	-	-	-	-	-	-	33
	合計				500	476	464	432	4	-	13	1	361	12	8	-	33

衛星通信研修（主催：ヴェクソンインターナショナル株）・S-QUE研究会

研修No	研修名	実施日数	研修開催日	定員	受講者数
その他	重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修	1	6/14	200	191
	看護必要度ステップアップ研修 看護管理者のための「重症度・医療度」の院内監査のあり方～地域包括ケアシステムと多職種連携	1	9/13	150	146
	合計			350	337

2. 第34回千葉県看護研究学会

(1) 目的

看護の現場で起きた課題や疑問などを看護研究としてまとめ、発表し、成果や課題を参加者間で共有することを得られた知見を看護実践に生かし、看護現場の質を高める。

(2) テーマ 「想いをかたちに 看護で未来につなげる」

(3) 日時 平成28年2月26日（金）9：30～16：00

(4) 場所 アパホテル&リゾート<東京ベイ幕張ホール>

(5) プログラム

①開会式 9：35～9：55

②特別講演 10：00～11：30

テーマ 「専門職としてきらきら輝くために！ ～想いやりの心を伝えることば術～」

講師 現代礼法研究所 代表 NPO法人マナー教育サポート協会 理事長 岩下宣子

③ミニレクチャー 11：40～12：10

テーマ 「看護実践を伝えたい(2) ～伝わるプレゼンテーションのコツ～」

講師 順天堂大学医療看護学部 准教授 島田広美

④研究発表 13：00～15：40 ①口演 29題 ②示説 17題 ③紙上1題 合計47題

⑤看護研究支援 13：30～15：30（相談支援、文献検索等）

(6) 総参加者数 総数479名

(7) 表彰演題（表彰は平成28年度通常総会にて行う）

①最優秀演題 「人員増員による転倒予防の効果の検証」

佐藤 恵美子 一般社団法人巨樹の会八千代リハビリテーション病院

②優秀演題 「7対1病棟における看護量について」

中嶋 秀明 千葉大学医学部附属病院

(8) まとめ

千葉県看護研究学会の開催は34回をむかえた。

演題数47題、参加者数479人であった。演題数は計画した目標演題数60題には届かなかったが26年度、27年度と年々微増している。これは研修会だけではなく、理事会や地区部会長等にも広報し、また募集期間も延長したこと等によるものと考えられる。

また、参加者数は目標の95.8%であり、演題募集同様様々な機会を捉えて広報し、参加申し込み期間も学会開催3週間前までとしたことも併せて、広報の成果が少しずつではあるが感じられた。

口演発表会場や示説会場では活発な質疑応答や意見交換が行われ、会場全体が活気にあふれていたように感じられた。

平成26年度から設置した千葉県看護研究学会実行委員会の中で企画・運営・内容等の検討を重ねた。特に前年度評価が高かったミニレクチャーを28年度も同様に看護研究支援のためのミニレクチャー(2)として開催し、多くの参加者が聴講していた。

また、研究支援の一環として開催している看護研究相談コーナーに、休憩コーナーを設け参加者が相談しやすい雰囲気づくりを行った。そのためか前年度より参加者は多く、支援コーナーでは参加者が途切れることなく熱心に助言を受けていた。

今後も引き続き支援コーナーを有効活用できるように設営を考えたい。

また、看護研究学会実行委員会は引き続き設置し、社会情勢をふまえ、時代や会員のニーズに応じた企画・運営を検討し、充実した学会につなげていく必要がある。

3. 助産師出向支援

助産師出向支援事業に係る事前ニーズ調査の実施

目的 平成28年度助産師出向支援事業の事業化に向け検討する際の、基礎資料とするため

実施時期 平成27年9月16日～9月30日

調査対象 千葉県内の産科を標榜する医療機関190施設

調査方法 郵送により調査票を配付、返信用封筒にて返送

調査結果の概要

回収数	分娩取扱施設	109
	分娩休止施設	44
回収率		65
		57.4%

① 現在の産科の運営について (n=109)

産科外来・病棟を開設し運営している	産科を標榜しているが休止している
44	65
40.4%	59.6%

* 以下の設問では、『産科外来・病棟を開設し運営している』44施設を対象とする

② 施設の概要

②-1 施設の形態

	病院				診療所
	総合周産期センター	地域周産期センター	周産期連携病院	一般病院	
運営している (n=44)	1 2.3%	5 11.4%	1 2.3%	14 31.8%	23 52.3%
休止中 (n=65)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 6.2%	61 93.8%

②-2 院内助産システム

院内助産 (n=44)

あり	なし	現在準備中	未記入
2	36	3	3
4.5%	81.8%	6.8%	6.8%

助産外来 (n=44)

あり	なし	現在準備中	未記入
22	18	2	2
50.0%	40.9%	4.5%	4.5%

③ 年間分娩件数 (帝王切開を除く実数)

	分娩件数	平均	最大	最少
病院 (n=19)	7,143	375.9	1,440	39
診療所 (n=20)	7,687	384.4	1,238	67
計 (n=39) *1	14,830	118	-	-

*1 未記入の5施設除く

産科病棟助産師一人あたりの年間分娩件数 (帝王切開を除く)

	1施設あたりの分娩件数 (平均)	産科病棟の助産師数 (平均)	一人あたりの分娩件数
病院	376	18.2	20.6
診療所	384	7.4	52.1

④ 助産師を出向させることについて

④-1 他施設へ助産師を出向させたいと思うか

	思う	思わない	その他	未記入
病院 (n=21)	3 14.3%	13 61.9%	5 23.8%	0 0.0%
診療所 (n=23)	0 0.0%	18 78.3%	3 13.0%	2 8.7%
計 (n=44)	3 6.8%	31 70.5%	8 18.2%	2 4.5%

助産師を出向させたいと思う理由

- 【病院】
- ・地域・他施設の連携強化
 - ・助産師偏在是正への協力
 - ・助産師のスキルアップ、モチベーションアップ
 - ・助産師のキャリア開発の為
 - ・助産学生の実習を受け入れており、分娩介助経験が少なくハイリスク分娩が増えているため、正常分娩を経験させたい。キャリアアップ

助産師を出向させたいと思わない理由

- 【病院】
- ・人員不足、業務多忙 (6)
 - ・自施設の若い助産師の育成に苦慮しており、出向させる余裕がない。正常分娩件数と帝王切開が半々で看護学生 (3校) と助産師学生の受け入れがあり、250件/年の分娩割り当ておよび指導者の確保が困難
 - ・助産師の数は増えてきているが、自立している助産師がまだ少ないため
 - ・周産期センターで、リスクの高い症例に日々接しているので、他院への出向は考えていない
 - ・当院において助産師教育システムがある
 - ・4機関併せての教育体制を確立している
 - ・法人内で出向させているので他の施設との間の出向は考えていない
- 【診療所】
- ・人員不足、業務多忙 (15)
 - ・分娩数が比較的多いため
 - ・必要性を感じない

その他

- 【病院】
- ・1、2年の助産師40%を教育できる人員
 - ・ガイドラインとは合致しないが、現在行っている研修として、継続可能であれば活用したい
 - ・現状の助産師数・経験年数では出向は困難
- 【診療所】
- ・個人の技術向上や知識・意識の改革には必要だと思うが、法人が運営する助産師学校の臨地実習を15名抱えており、現状の施設運営だけで手一杯
 - ・本人の意思による

④-2 出向させる場合、どのような条件であれば可能か (複数回答) (n=44)

短期間出向	年度毎 (1年間) の出向	今後数年間 の継続した 出向	給与面で 不利益に ならない	身分保障	住居の確保	出向中の経験 が出向元の人事 評価に反映 される	インシデント ・アクシデント 発生時の対 応の保障	必要な人材 の条件があ えば	その他	未記入
16	4	2	19	21	13	10	20	12	1	20
36.4%	9.1%	4.5%	43.2%	47.7%	29.5%	22.7%	45.5%	27.3%	2.3%	45.5%

④-3 出向させる場合に課題となること、解決したい事等

- 【病院】
- ・出向中の人員確保 (7)
 - ・出向中の経験が、助産師クリニカルラダーⅢの要件である正常分娩介助件数として認められること
 - ・助産師（自立した）の数が増えて、当院での業務に支障がなければ
 - ・助産師の質の向上、夜勤回数と仕事内容の見直し
 - ・自ら出向を希望する助産師を出向させ強制はしない
 - ・出向先によって通勤等の負担に配慮する
 - ・出向助産師の環境への適応状況に対する配慮。状況によっては出向を中止する
 - ・医療事故が発生した場合の責任の所在について
 - ・公務員である為、出向先が規程で限定されている。市からの命令で出向する体制整備が必要となる

- 【診療所】
- ・出向中の人員確保 (4)

⑤ 助産師を自施設に受け入れることについて

⑤-1 他施設からの助産師の出向を受け入れてみたいと思うか

	思う	思わない	その他	未記入
病院 (n=21)	8 38.1%	11 52.4%	2 9.5%	0 0.0%
診療所 (n=23)	10 43.5%	9 39.1%	2 8.7%	2 8.7%
計 (n=44)	18 40.9%	20 45.5%	4 9.1%	2 4.5%

助産師を受け入れてみたいと思う理由

- 【病院】
- ・人事交流、分娩介助や設備等についての情報交換 (2)
 - ・教育システムと年間の分娩件数の確保
 - ・助産師外来を実施、産前・後の指導の充実
 - ・地域他施設との連携強化、周産期医療体制整備への協力
 - ・リスクの高い症例を体験した助産師が増えることは、当院に搬送する前の安全性を高めることになる
 - ・自施設の教育体制・ラダーを他施設からの助産師教育支援に使え、広く周産期医療という視点で考えたとき、実践ある助産師育成に貢献できると考えたため
 - ・最低3年以上の産科経験値のある人であれば、技術は件数を取れば思い出すと思われる
知識や向上心のない人は、件数に囚われ質を伴わない人がいるので、志で評価したい（ラダー評価を基に）
- 【診療所】
- ・人員不足 (7)
 - ・新しいことを取り入れること、交流することに意義がある
 - ・他施設の方法や考え方、知識を取り入れたい

助産師を受け入れてみたいと思わない理由

- 【病院】
- ・分娩件数が減少しているため (2)
 - ・スタッフ不足につき、業務を教えることはできない。プリセプターが限られているため、新人につけない
 - ・なるべく自施設で育成した人員で業務を行いたい
 - ・分娩件数によっては、自施設の助産師の分娩、介助経験数への影響が考えられる（学生実習受け入れあり）
 - ・看護学生（3校）と助産師学生の実習受け入れで手が一杯である。実習日の調整にも大変苦慮している
 - ・アドバンス助産師として、知識・技術を持つ方に指導的立場で出向して頂けると助かるが、若い助産師を受け入れるには、指導できる助産師が少なく、現状は難しい
 - ・全て教えて、短期でいなくなる業務のロスになる。当院採用者の教育で精一杯である
 - ・十分ではないが助産師がいるので受け入れは必要ない

- 【診療所】 ・人材が足りている (2)
- ・受け入れ態勢が整わない (2)
 - ・待遇面
 - ・年々状況が変化するが、現時点では、当院の業務のやりくりで生一杯である。
 - ・分娩数の減少
 - ・当院と異なる指導説明をされると、患者さんが戸惑うと思う
 - ・できれば長期勤務を希望する

⑤-2 受け入れる場合、どのような条件であれば受け入れが可能か (複数回答) (n=44)

短期間出向	年度毎 (1年間) の出向	今後数年 間の継続 した出向	給与面で 不利益に ならない	身分保障	住居の確保	出向中の経験 が出向元の人事 評価に反映 される	インシデント ・アクシデント 発生時の対応 の保障	必要な人材の 条件があれば	その他	未記入
11	12	12	14	12	11	6	16	15	1	16
25.0%	27.3%	27.3%	31.8%	27.3%	25.0%	13.6%	36.4%	34.1%	2.3%	36.4%

その他 ・検討する事も考慮

⑤-3 受け入れるとした場合に課題となること、解決したい事等

- 【病院】 ・給与面と住居の確保 (3)
- ・産科領域以外 (電子カルテ使用法など) の教育。産科以外の業務をどのくらい任せられるか (混合病棟の為)
 - ・医師との調整、医師の理解
 - ・医師が少ないため分娩件数を制限している
 - ・すぐに夜勤に入れる位の理解力、能力、経験もあり、即戦力になれば、プリセプター教育充実後受け入れも可能
 - ・中堅クラスの助産師が不足し、若手の育成に苦慮している。若手が成長できるまでは、出向も受け入れも厳しい
 - ・必要な研修を受けさせられるか、当人の希望する業務をさせてあげられるかどうか
 - ・助産実習など、学生受け入れが多いため、実際分娩介助件数として多くかかわれるかが疑問。異常分娩が多いので助産師教育システムが確立してからのの方が良い
 - ・入～退院を一連の経過で助産診断し、適切な能力があるか見極めるための評価表を、助産ラダーで代用できるか
 - ・学生の実習のような研修体制ではなく、当院のトレーディングシステムのように1人の助産師として、職員として研鑽をつむ期間と、お互いに思えるかどうか
 - ・人間関係
- 【診療所】 ・基本的に受け入れる
- ・住居の確保
 - ・業務内容の見直し、体制の改善など
 - ・助産師不足の為、出向してくれた方の助産業務の評価をする者が同一時間帯にいるかどうか
 - ・当院の看護理念や目標を理解し、それに沿った看護ができることが大切。総合病院と個人医院の違いなども理解していないと難しい

Ⅱ 看護職等の労働環境等の改善、就業促進等による看護師等の人材確保・定着に関する事業

1. 看護職のワーク・ライフ・バランス推進事業

平成27年度 看護職のWLB推進ワークショップ プログラム

開催日程 平成27年10月7日(水)・8(木) 2日間
 開催会場 千葉県ナースセンター 3階実習室
 参加者 参加施設、WLB推進部会等メンバー、オブザーバー

〈1日目：10:00～16:00〉

時間	内容	講師・担当者	司会等
10:00～10:05 (5分)	あいさつ	千葉県看護協会長	
	講義 テーマ ―看護職が働き続けられるために―		
10:05～11:05 (60分)	1. 「組織的な取組みをめざして ～職員の勤労意欲と満足感～」	千葉県循環器病センター 事務局長 氏原 強	福留理事
11:05～11:35 (30分)	2. 「事例発表：WLB推進の取り組み 3年目報告 ～2年間の取組みから見えてきたこと～」	取組み3年目 さんむ医療センター 看護部長 岩澤紀子	
11:35～12:00 (25分)	3. ワーク・ライフ・バランスが職場に根付く取組み方とは	千葉県看護協会 WLB推進アドバイザー 山田みどり	
12:00～13:00	昼 食		
13:00～16:00 (180分)	個別ワーク（各施設毎で作業） ・進め方のオリエンテーション ・インデックス調査結果の分析 ・自施設の問題・課題の確認、優先度の明確化 ・目標の設定 ・アクションプランの立案 ※随時、支援者、推進者、WLB推進部会メンバー等の助言を受けながら進めていく	千葉県看護協会推進者・ 支援者	福留理事

〈2日目：10:00～15:30〉

時間	内容	講師・担当者	司会等
10:00～12:00 (120分)	個別ワーク（各施設毎で作業）	千葉県看護協会 WLB支援者他	福留理事
12:00～13:00	昼 食		
13:00～15:00 (120分)	各施設の発表（6施設、各施設20分） ①千葉中央メディカルセンター②帝京大学ちば総合医療センター③佐倉厚生園病院④国保小見川総合病院⑤千葉徳洲会病院⑥日本医科大学千葉北総病院 ・自施設の分析結果(問題、課題、優先度、その根拠、推進体制づくり)及びアクションプラン(案)を発表 参加施設、支援者、推進者、WLB推進部会メンバー等と討議を行う	千葉県看護協会 WLB推進者・支援者	福留理事
15:00～15:05	休憩		
15:05～15:25 (20分)	全体討議、意見交換、総評		WLB推進部会・ 澤田専務
15:25～15:30 (5分)	フォローアップワークショップ（平成27年1月16日） について説明		福留理事 山田アドバイザー

看護職のWLB推進フォローアップワークショップ プログラム

1. 目的：ワークショップ後の各施設での取組みについて、情報を共有すると共に意見交換を行い、次年度以降の各施設における取組み課題を明確にする。
2. 開催日時：平成28年1月29日（金）9時30分～15時00分
3. 開催会場：千葉県看護会館2階大研修室
4. 参加者：参加施設、ワーク・ライフ・バランス推進部会委員(支援者、推進者)及び事務局、傍聴者等
5. 内 容 司会：福留理事

時 間	内 容	担 当
9：20～9：30	オリエンテーション	福留理事
9：30～9：45	WLB今年度の取組みについて	山田アドバイザー
9：45～10：05 10：05～10：25 10：25～10：45 10：45～11：05 11：05～11：25 11：25～11：45 <各施設20分>	<p>各施設の報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本医科大学千葉北総病院 2. 帝京大学ちば総合医療センター 3. 佐倉厚生園病院 4. 国保小見川総合病院 5. 千葉徳洲会病院 6. 千葉中央メディカルセンター <p>—報告内容—</p> <ol style="list-style-type: none"> ①病院概要 ②推進体制づくり ③アクションプラン ④アクションプランの実施状況 ⑤次年度に向けての取組み計画、課題 	
11：45～12：00	質疑応答	WLB推進部会等
12：00～13：00	昼 食	
13：00～13：15 13：15～13：30 <各施設15分>	<p>取組み2年目施設の進捗状況について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東邦大学医療センター佐倉病院 2. 柏厚生総合病院 	
13：30～13：50	総 評	WLB推進部会澤田専務
13：50～14：00	休 憩	
14：00～15：00 講 義 45分 質疑応答 15分	<p>講 演</p> <p>「時間外労働削減のしくみ作り」</p> <p>千葉労働局 労働基準部監督課 働き方・休み方改善コンサルタント 坂上和芳 氏</p>	

2 看護進路相談事業

ふれあい看護体験事業

- (1) 目的 中・高校生等が病院や介護施設において、看護師の看護実践場面の見学や体験をとおして看護を実感することにより、看護についての関心を高め、理解を深めることにより看護を志す人材を確保する。
- (2) 実施期間 平成27年5月～平成27年12月
- (3) 受入施設 91施設
- (4) 実施施設 65施設
- (5) 参加人数 900名
- (6) 実施内容 ① 看護についての説明 ② 院内見学
③ ベッドメイキング ④ 清拭、手浴、足浴等清潔の介助
⑤ 移動の介助（車椅子移動） ⑥ 食事介助
⑦ バイタルサイン測定 ⑧ 看護に係わる進路相談等
- (7) 参加者の感想 ・常に患者と向き合い、変化を見逃さないところがすごいと思った。
・看護の仕事や病院でどのような人が働いているかがわかり、進路の選択に参考になった。
・患者に応援してもらったので、より看護師になりたい気持ちが強くなった。
- (8) 受入施設の感想 ・体験を通して将来看護師になりたいという気持ちを強くしてくれたので、「ふれあい看護体験」を開催してよかったと思う。
・「ふれあい看護体験」は看護師の自分たちにとっても看護の楽しさを伝える良い機会だと思う。
・体験に参加した高校生に刺激を貰い、看護職を目指していた頃を思い出し、気が引き締まる思いがした。

進路相談事業

- (1) ナースセンターにおける進路相談

項目	一般	高校	中学	教員	保護者	その他	計
電話相談	38	2	0	6	17	9	72
面接	3	1	0	0	1	1	6
メール	4	1	0	1	0	0	6
FAX・郵便	0	0	0	0	0	0	0
合計	45	4	0	7	18	10	84

- (2) 出前授業（出張相談含む）

NO	学校名	参加者数
1	東金市立東中学校	150
2	流山市立東深井中学校	137
3	市川市立福栄中学校	80
4	柏市立柏第二中学校	271
5	柏市立柏中学校	190
6	習志野市立第五中学校	231
7	千葉市立磯辺中学校	191
8	千葉市立さつきが丘中学校	85
9	香取市立山田中学校	91
10	千葉市立こてはし台中学校	160
11	四街道市立千代田中学校	116
12	西武台千葉中学校	54

NO	学校名	参加者数
13	銚子市立第六中学校	61
14	千葉市立越智中学校	62
15	千葉県立松戸高等学校	245
16	東京学館高等学校	20
17	千葉県立姉崎高等学校	9
18	県立津田沼高等学校	10
19	県立八千代高等学校	41
20	西武台千葉高等学校	341
21	県立佐倉東高等学校	20
22	県立千葉女子高等学校	57
23	昭和学院高等学校	32
合計（名）		2654

【授業内容】

- ・いのちの大切さ、こころとからだの話
- ・看護職の仕事（仕事内容・魅力、体験談等） 看護職への道（資格の取り方、進路の説明等）
- ・看護技術の体験（心音聴取、血圧・脈拍測定等）

3 ナースセンター事業

(1) 看護職の職業紹介事業

ナースセンター登録状況

①新規受付登録者数 (人)

*仮登録者を含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保健師	2	2	5	4	5	2	7	5	3	4	4	2	45
助産師	0	1	1	1	4	1	2	2	0	0	1	0	13
看護師	49	46	43	31	38	35	41	41	22	33	32	36	447
准看護師	5	3	4	4	4	4	6	5	1	2	5	6	49
未記入*	45	28	23	18	31	18	65	28	26	28	35	23	368
合計	101	80	76	93	82	101	92	96	52	128	93	67	922

システム改修後の新規利用者数

②求人数 (人)

*求職登録有効期間 6か月

	保健師	助産師	看護師	准看護師	合計(人)
病院	3	5	726	0	734
診療所	5	4	148	20	177
訪問看護ステーション	0	0	124	1	125
介護保健施設等	0	0	224	12	236
社会福祉施設等	0	0	26	1	27
県・市町村	18	5	21	0	44
事業所等	17	0	17	0	34
学校等	1	0	12	0	13
その他	12	0	58	0	70
合計	56	14	1,356	34	1,460

(平成28年3月末現在)

(2) 届出制度 (平成28年10月から運用開始: 10月1日~3月31日)

531人			
就業意志があると思われる者 208人 (39.2%)		左記以外の届出者 323人 (60.8%)	
直ぐ復職したい	20人	就業中 (看護職等)	100人
いずれ復職したい	74人	就業中 (看護職外)	78人
意志あり時期未定	114人	その他 (未記入含)	145人

(3) 看護職再就業講習会

目的：未就業の看護職の職場復帰を支援するため、最近の医療や看護の知識技術を習得する機会を確保し、就業の動機づけにする。

参加状況：参加人数3名、就業者3名

(内訳：40歳代3名、ブランク5年未満2名・5年以上1名)

(4) 看護基礎技術講習会

目的：潜在看護職及び求職中の看護職で、看護基礎技術に不安があり、再学習及び再習熟を希望している方を対象に、ナースセンターにおいて看護基礎技術を体験、習熟する場を確保し、支援することにより再就業への動機づけとする。

参加状況	参加人数	51名
	就業者	16名
	就業率	31.37%

参加者の背景

年齢	職種別数				人数(名)	経験年数	人数(名)	ブランク	人数(名)
	保	助	看	准					
30歳以下	1	0	5	0	6				
30～35歳	0	0	6	1	7	5年未満	21	5年未満	19
36～40歳	1	0	11	1	13	5年以上	18	5年以上	10
41～45歳	0	0	13	0	13	10年以上	12	10年以上	22
46～50歳	0	0	6	0	6	合計人数	51	合計人数	51
51歳以上	0	0	6	0	6				
合計人数	2	0	47	2	51				

(5) 看護職の定着確保にかかる調査

①看護職の定着確保動向調査

調査目的：看護職の定着確保対策の一環として、毎年、新人看護職の現状や、離職中の看護職の就業意向や希望する勤務条件、さらに、病院における看護職の需給動向や教育研修体制、労働条件、定着確保対策を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料とする。

調査対象及び調査方法、調査期間

調査対象	調査方法	調査期間
千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収	平成27年10月1日～平成27年10月15日
千葉県看護協会主催のフレッシュセミナー受講生	フレッシュセミナーにて調査票を配布・回収	平成27年10月6, 7, 8, 9, 13, 14, 15, 19, 20, 21, 22日
求人施設(県内病院の看護管理者)	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収	平成27年10月1日～平成27年10月15日

調査結果の概要

ア. 千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職

対象数：130名 回収数：59名 (回収率：45.4%)

(ア) 求職者の現住所

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛
13	3	14	6	3	7	5
22.0%	5.1%	23.7%	10.2%	5.1%	11.9%	8.5%
利根	山武	長夷	君津	安房	県外	無回答
0	3	0	4	0	1	0
0.0%	5.1%	0.0%	6.8%	0/0%	1.7%	0.0%

(イ) 年齢

20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
0	4	10	22	20	3
0.0%	6.8%	16.9%	37.3%	33.9%	5.1%

(ウ) 離職時の職種

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
9	1	43	6	0
15.3%	1.7%	72.9%	10.2%	0.0%

(エ) 看護業務の通算勤務年数

1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
0	2	4	6	15	11	21	0
0.0%	3.4%	6.8%	10.2%	25.4%	18.6%	35.6%	0.0%

(オ) ブランク期間

0～3年	4～5年	6～10年	11年以上	無回答
41	2	4	16	0
69.5%	3.4%	6.8%	27.1%	0.0%

(カ) 離職時の雇用形態

正規職員	非常勤職員	派遣	無回答
42	17	0	0
71.2%	28.8%	0.0%	0.0%

(キ) 離職理由

定年退職	契約期間満了	結婚	出産育児 子供のため	配偶者の 転勤	老親の世話 家族の介護	家事と両立 しない	健康上の 理由	自分の適正 能力への不安	Uターンの ため
4	1	10	9	6	7	6	9	6	0
6.8%	1.7%	16.9%	15.3%	10.2%	11.9%	10.2%	15.3%	10.2%	0.0%

通勤困難	転居	他分野への 興味	進学	看護職に向 いていない	人間関係	看護内容 への不満	継続教育が ない	賃金への 不満	労働時間へ の不満
5	10	4	2	0	11	4	2	2	2
8.5%	16.9%	6.8%	3.4%	0.0%	18.6%	6.8%	3.4%	3.4%	3.4%

夜勤回数 が多い	残業量 が多い	福利厚生 が十分でない	休みが 取れない	その他
1	1	1	5	7
1.7%	1.7%	1.7%	8.5%	11.9%

その他 ○リストラ ○事業主の都合 ○閉院 ○妊活 ○会社全体に不信感 ○体力的にきつい									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(ク) 就業条件

保育所がある (夜間保育含む)	育児制度が 利用できる	介護休暇が とれる	休みが とりやすい	超過勤務が 少ない	夜勤回数が 少ない	夜勤がない	柔軟な勤務 形態の導入	自分の 希望する給与	通勤に便利な 職場
5	3	2	27	11	4	9	14	15	23
8.5%	5.1%	3.4%	45.8%	18.6%	6.8%	15.3%	23.7%	25.4%	39.0%

看護内容が 充実している	自分の能力が 活かせる	継続教育が 充実している	希望する看護 領域である	資格取得支援 がある	無回答
8	12	8	11	2	1
13.6%	20.3%	13.6%	18.6%	3.4%	1.7%

イ. 千葉県看護協会主催のフレッシュセミナー受講中の看護職

対象数 : 1,281名 回収数 : 1,179名 (回答率 : 92.0%)

(ア) 性別

女性	男性	無回答
1054	121	4
89.4%	10.3%	0.3%

(イ) 卒業した看護師等学校養成所

大学院	大学	看護学校	保健師学校	助産師学校	准看護師学校	その他	無回答
6	369	706	1	11	26	44	16
0.5%	31.3%	59.9%	0.1%	0.9%	2.2%	3.7%	1.4%

その他

○5年一貫高校	○看護短期大学	○4年生専門学校
---------	---------	----------

(ウ) 職種

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
36	29	1038	33	43
3.1%	2.5%	88.0%	2.8%	3.6%

(エ) 勤務形態

常勤	非常勤	無回答
1148	8	23
97.4%	0.7%	2.0%

(オ) 現在の就業施設の所在地区

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛	利根	山武	長夷
199	74	220	123	102	37	137	70	0	8
16.9%	6.3%	18.7%	10.4%	8.7%	3.1%	11.6%	5.9%	0.0%	0.7%

君津	安房	県外	無回答
38	90	1	80
3.2%	7.6%	0.1%	6.8%

(カ) 施設規模・施設等

病院							無床診療所	有床診療所	市町村
20~99床	100~199床	200~299床	300~399床	400~499床	500床以上	床数不明			
14	71	145	206	219	385	0	0	0	2
1.2%	6.0%	12.3%	17.5%	18.6%	32.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%

健康福祉センター	訪問看護ステーション	介護保健施設	社会福祉施設	その他	無回答
0	1	0	0	0	136
0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.5%

(キ) 辞めたいと思ったことの有無

ある	ない	無回答
801	358	20
67.9%	30.4%	1.7%

(ク) 辞めたいと考えた理由

勤務時間内の仕事が終わらない	463	39.3%
自分は看護職に向いていないのではないかと思う	422	35.8%
配属部署の専門的な知識や技術が不足している	376	31.9%
医療事故を起こさないか心配である	376	31.9%
基本的な技術が身についていない	315	26.7%
自分の看護が患者のニーズにこたえているか自信がない	301	25.5%
自分のペースで仕事ができない	277	23.5%
職場の先輩に質問しづらい	244	20.7%
仕事の優先順位が付けられない	241	20.4%
ヒヤリハットレポートを書いた	223	18.9%
就職前に考えていた看護の仕事とギャップが大きい	213	18.1%
与えられる課題等があつて休日に休めない	196	16.6%
看護職を辞めたいと思っている	195	16.5%
職場の雰囲気になじめない	184	15.6%
受け持ち患者が多すぎる	153	13.0%
看護業務以外の業務が多すぎると感じる	147	12.5%
十分な教育研修が受けられていないと感じる	120	10.2%
プリセプターと合わない	103	8.7%
医師との意思疎通がうまくいかない	99	8.4%
患者及び家族とのコミュニケーションがうまくとれない	72	6.1%
直属の上司からサポートが得られない	71	6.0%
プリセプターからの1人立ちが早いと感じる	68	5.8%
夜勤に入るのが早いと感じる	54	4.6%
電話の対応がうまくできない	53	4.5%
交代制の勤務に慣れない	51	4.3%
院内のITシステムがうまくいかない	25	2.1%
夜勤のリーダー業務が負担である	18	1.5%
無回答	8	0.7%

(ケ) 辞める事を思いとどまった理由

生活していくための手段	484	41.1%
自分なりに整理がついたから	232	19.7%
収入が安定しているから	214	18.2%
同僚に相談し、再度やる気になったから	200	17.0%
職場環境が仕事をしやすい環境だったから	92	7.8%
目的・目標を持てたから	74	6.3%
師長等中間管理職に相談し、再度やる気になったから	48	4.1%
上司に認めてもらえたから	36	3.1%
看護管理者が尊敬できたから	31	2.6%
仕事にいきがいを感じたから	29	2.5%
給料が仕事に見合っていたから	14	1.2%
研修の機会が用意されたから	10	0.8%
結婚・出産・育児に家族の協力が得られたから	4	0.3%
その他	73	6.2%

その他

○奨学金返済のため	○辞めづらい	○先輩・プリセプターのサポート
○患者からの感謝	○医師に相談	○決断できない
○業務・環境改善	○同期の励まし	○時期がまだ早い
○部署異動	○辞職検討中	○辞めても仕方がない
○親の期待	○仕事が好き	○意地

ウ. 求人施設（県内病院の看護管理者）

対象施設数 : 284施設 回収数 : 169施設（回収率 : 59.5%）

(ア) 施設の所在地

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛	利根	山武	長夷	君津	安房	無回答
35	9	26	9	14	19	9	12	7	11	7	11	0
20.7%	5.3%	15.4%	5.3%	8.3%	11.2%	5.3%	7.1%	4.1%	6.5%	4.1%	6.5%	0.0%

(イ) 稼働病床数

	一般病棟	療養病棟	結核病棟	精神病棟	その他
許可稼働数	25,337	5,347	47	5,716	4,191
稼働病床数	22,554	4,670	43	5,205	3,194

(ウ) 常勤看護職員の離職率 11.7%

(エ) 新卒看護職員の離職率 7.8%

(オ) 1 カ月当たりの超過勤務時間が、「60時間以上」の常勤看護職員数(非管理職) (2015年4月分の実績)

	あり		なし	無回答
		人数		
病棟	2	4	165	0
外来	1	-	165	0

(カ) 看護職員の超過労働を減らす具体的な対応策 (複数回答)

対策している (n= 155)								対策して いない	無回答
看護職員の増員	看護職員以外の 職員の増員	看護職員の業務 分担の見直し	看護職員と他職 種との業務調整	業務量に応じた 柔軟な人員配置	その他	特になし			
153	80	83	123	96	92	8	2	13	3
90.5%	52.3%	54.2%	80.4%	62.7%	60.1%	5.2%	1.3%	7.7%	1.8%

その他

- 時差出勤・終業
- 看護助手の夜勤導入
- タイムカードチェック
- 委員会昼開催
- EPA学生アルバイト
- PNS導入
- WLB推進事業参加
- 多様な勤務形態
- DINQLデータベース事業参加

(キ) 多様な勤務形態導入状況 (複数回答)

導入している (n= 127)											導入して いない	無回答
フレックス タイム	ジョブ・シェ アリング	時差出勤 終業	在宅勤務	学期間労働	期間限定労働 時間短縮	年間労働時 間契約制	圧縮労働 時間制	短時間正 職員制度	その他			
108	20	0	58	0	3	18	8	4	56	10	55	6
63.9%	18.5%	0.0%	53.7%	0.0%	2.8%	16.7%	7.4%	3.7%	51.9%	9.3%	32.5%	3.6%

その他

- 夜勤免除
- 日勤常勤、夜勤専従
- 短時間パート職員
- 3交替、2交替選択制
- 部分休業
- 介護、看護休暇

(ク) 育児・介護休業法の改正に伴う取り組み

	取り組んでいる (n=147)						取り組んでいない	無回答
	看護職員の増員	看護職員以外の職員の増員	看護職員の業務分担の見直し	看護職員と他職種との業務調整	業務量に応じた柔軟な人員配置	その他		
147	73	51	72	49	95	16	18	4
87.0%	49.7%	34.7%	49.0%	33.3%	64.6%	10.9%	10.7%	2.4%

その他

<input type="checkbox"/> 育児短時間・部分休業 <input type="checkbox"/> 短時間勤務 <input type="checkbox"/> 院内保育室の充実、デイサービスの利用 <input type="checkbox"/> 看護師長による子育てミーティング実施	<input type="checkbox"/> 24時間保育室常設 <input type="checkbox"/> 育児・介護休暇	<input type="checkbox"/> 夜勤免除 <input type="checkbox"/> 子供看護休暇 <input type="checkbox"/> 病児保育 <input type="checkbox"/> パートナーシップ
---	--	--

(ケ) 看護職員の卒後の教育研修体制

a. 教育部門の教育研修責任者の配置状況

	配置あり (内訳 n=133)				配置なし
	専従	専任	両方	無回答	
133	30	101	1	1	36
78.7%	17.8%	59.8%	0.6%	0.6%	21.3%

b. 病棟・外来の教育研修担当者(プリセプターを除く) 配置状況

	配置あり (内訳 n=118)			無回答	配置なし
	専従	専任	両方		
118	9	107	2	49	2
69.8%	5.3%	63.3%	1.2%	29.0%	1.2%

c. 新卒看護職員の研修を企画・評価する組織(委員会等) の設置状況

あり	なし	無回答
116	50	3
68.6%	29.6%	1.8%

d. 新卒看護職員の教育研修体制について

	業務に支障なく研修を受講できる人員配置	看護部門に教育研修責任者を配置	病棟、外来等の部署単位に教育研修担当者を配置	教育研修を企画・評価する組織を設置	病院間連携による教育研修の実施	教育研修担当者の資質向上のための支援	教育研修担当者の業務量への配慮	その他	特になし	無回答
すでに取り組んでいる	78 46.2%	99 58.6%	92 54.4%	109 64.5%	63 37.3%	93 55.0%	61 36.1%	6 3.6%	9 5.3%	1 0.6%
取り組みの拡充・新たに開始予定	10 5.9%	6 3.6%	7 4.1%	4 2.4%	11 6.5%	10 5.9%	5 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

その他

<input type="checkbox"/> eラーニング <input type="checkbox"/> 教育企画委員会のメンバーに月一度活動日を設ける	<input type="checkbox"/> 看護協会の研修参加
---	------------------------------------

e. 全看護職員の卒後研修体制のシステム化状況

システム化されている	システム化されていない	検討中	無回答
87	42	38	2
51.5%	24.9%	22.5%	1.2%

f. クリニカルラダー(キャリア開発ラダー) 導入状況

導入している	導入していない	検討中	無回答
66	59	41	3
39.1%	34.9%	24.3%	1.8%